

和仏法律学校講義録

梅, 謙次郎 / 金井, 延 / 松波, 仁一郎

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

16

(号 / Number)

高等科

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

84

(発行年 / Year)

1903-08-27

（明治三十五年十一月四日第三編郵便認可 毎月七回一日五日六日八日十日十一日十二日十五日十六日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿九日三十日發行）

明治三十六年八月二十七日發行

三十六年度 高等科ノ十六（完結）

和佛法律學子校講義錄

和佛法律學校

第百六拾八號



高等科第十六號目次

民法

○抵當權ニ付テノ講演

表紙及ヒ目次 六頁

法學博士 梅 謙次郎

商法

○商法第五百四十條ニ就テノ推問

表紙及ヒ目次 四頁

法學博士 松波仁一郎

經濟學

○經濟學上ノ根本問題ニ付テノ推問

○價直ノ種類、其關係、價格ト價値及ヒ物
價トノ關係、物價ノ騰貴ニ關スル推問

本位貨幣、補助貨幣並ニ貨幣制度ニ付テノ推問

表紙及ヒ目次 四頁

法學博士 金 井 延

法學博士 金 井 延

法學博士 金 井 延

○民事訴訟法、刑法、答案批評、表紙目次各十二頁外判例要旨 (自五頁至三頁附錄終)

雜 報 ○最近判例要旨彙報

090
1903
4-16

抵當權ニ付テノ講演

民法 梅 謙次郎 著
表紙 目次 六頁
第一章 抵當權ノ概念
第二章 抵當權ノ成立
第三章 抵當權ノ消滅
第四章 抵當權ノ優先性
第五章 抵當權ノ擔保性
第六章 抵當權ノ其他事項
第七章 抵當權ノ其他事項
第八章 抵當權ノ其他事項
第九章 抵當權ノ其他事項
第十章 抵當權ノ其他事項
第十一章 抵當權ノ其他事項
第十二章 抵當權ノ其他事項
第十三章 抵當權ノ其他事項
第十四章 抵當權ノ其他事項
第十五章 抵當權ノ其他事項
第十六章 抵當權ノ其他事項
第十七章 抵當權ノ其他事項
第十八章 抵當權ノ其他事項
第十九章 抵當權ノ其他事項
第二十章 抵當權ノ其他事項
第二十一章 抵當權ノ其他事項
第二十二章 抵當權ノ其他事項
第二十三章 抵當權ノ其他事項
第二十四章 抵當權ノ其他事項
第二十五章 抵當權ノ其他事項
第二十六章 抵當權ノ其他事項
第二十七章 抵當權ノ其他事項
第二十八章 抵當權ノ其他事項
第二十九章 抵當權ノ其他事項
第三十章 抵當權ノ其他事項
第三十一章 抵當權ノ其他事項
第三十二章 抵當權ノ其他事項
第三十三章 抵當權ノ其他事項
第三十四章 抵當權ノ其他事項
第三十五章 抵當權ノ其他事項
第三十六章 抵當權ノ其他事項
第三十七章 抵當權ノ其他事項
第三十八章 抵當權ノ其他事項
第三十九章 抵當權ノ其他事項
第四十章 抵當權ノ其他事項
第四十一章 抵當權ノ其他事項
第四十二章 抵當權ノ其他事項
第四十三章 抵當權ノ其他事項
第四十四章 抵當權ノ其他事項
第四十五章 抵當權ノ其他事項
第四十六章 抵當權ノ其他事項
第四十七章 抵當權ノ其他事項
第四十八章 抵當權ノ其他事項
第四十九章 抵當權ノ其他事項
第五十章 抵當權ノ其他事項
第五十一章 抵當權ノ其他事項
第五十二章 抵當權ノ其他事項
第五十三章 抵當權ノ其他事項
第五十四章 抵當權ノ其他事項
第五十五章 抵當權ノ其他事項
第五十六章 抵當權ノ其他事項
第五十七章 抵當權ノ其他事項
第五十八章 抵當權ノ其他事項
第五十九章 抵當權ノ其他事項
第六十章 抵當權ノ其他事項
第六十一章 抵當權ノ其他事項
第六十二章 抵當權ノ其他事項
第六十三章 抵當權ノ其他事項
第六十四章 抵當權ノ其他事項
第六十五章 抵當權ノ其他事項
第六十六章 抵當權ノ其他事項
第六十七章 抵當權ノ其他事項
第六十八章 抵當權ノ其他事項
第六十九章 抵當權ノ其他事項
第七十章 抵當權ノ其他事項
第七十一章 抵當權ノ其他事項
第七十二章 抵當權ノ其他事項
第七十三章 抵當權ノ其他事項
第七十四章 抵當權ノ其他事項
第七十五章 抵當權ノ其他事項
第七十六章 抵當權ノ其他事項
第七十七章 抵當權ノ其他事項
第七十八章 抵當權ノ其他事項
第七十九章 抵當權ノ其他事項
第八十章 抵當權ノ其他事項
第八十一章 抵當權ノ其他事項
第八十二章 抵當權ノ其他事項
第八十三章 抵當權ノ其他事項
第八十四章 抵當權ノ其他事項
第八十五章 抵當權ノ其他事項
第八十六章 抵當權ノ其他事項
第八十七章 抵當權ノ其他事項
第八十八章 抵當權ノ其他事項
第八十九章 抵當權ノ其他事項
第九十章 抵當權ノ其他事項
第九十一章 抵當權ノ其他事項
第九十二章 抵當權ノ其他事項
第九十三章 抵當權ノ其他事項
第九十四章 抵當權ノ其他事項
第九十五章 抵當權ノ其他事項
第九十六章 抵當權ノ其他事項
第九十七章 抵當權ノ其他事項
第九十八章 抵當權ノ其他事項
第九十九章 抵當權ノ其他事項
第一百章 抵當權ノ其他事項

民法 梅 謙次郎 著

シテ占有ノ繼續ヲ必要トシテ居ル、向キ實際ニ於テハ不動産ト雖モ通常占有ヲ繼續スルモノデアル、抵當權ノ特色ハ恰モ此有ラ必要ニシナイト云フ所ニ在ル、此第一ノ物ノ代價ニ付テ他ノ債權者ニ先テテ辨済ヲ受ケルト云フコトニ即チ所謂優先權○デアルマシ、此優先權ハ他ノ優先權トノ關係ニ於テ如何ナル順位ニ在ルカト云フコトヲ申上グナケレバ、ナラズ、申上グル如ク留置權ナルモノハ物ノ代價ニ付テハ何等ノ優先權ガナイ、同時ニ物其レ自身ニ付テハ一切ノ債權者ニ先ヅモノデアル、換言スルモ留置權者ニ辨済ヲ爲スコトヲ如何ナル債權者ト雖モ物ニ付テ辨済ヲ受ケルコトハ出来ナイ、其レ故ニ此點ニ於テハ抵當權者ト雖モ留置權者ニ勝ラズトハ出来ヌノデス、併シ一旦物ガ代價ニ變ラタ上ハ最早留置權ノ作用ハアリマセスカラ唯抵當權ト他ノ先取特權及ビ質權トノ關係アルノミデアル、是ニ於テチコト申上グナケレバ、ナラズ、後ニ端ヲ改メテ説明ヲ致シマスケレドモ抵當權ハ原則トシテ不動産ノ上ニシカ存セヌモノデアル、動産ニ付テハ存セヌモノデアル、例外トシテハ唯船舶アルノミデアル、船舶ニ付テハ抵當權ガアリマスガ其他ノ動産ニ付テハ抵當權ハナイ、ソコデ先取特權デ

モ動産ノ先取特權ト抵當權ト互ニ競合スルコト云フ、先テ大イ船舶ニ付テハ例外トシテアリマスガ、之ニ付テハ商法ニ特別ノ規定ガアリマス、故ニ船舶ノ事ハ姑ク措イテ論シマセヌ、サウスルコト謂リ不動産ニ限ル、隨テ不動産ノ抵當權ト不動産ニ關スル先取特權及ビ不動産質トノ關係シカ變ラズ、第一不動産ノ先取特權之ヲ區別スルコト云フト特別ノ先取特權ト一般ノ先取特權トアル、一般ノ先取特權ハ不動産ニ付テハ登記ヲシナケレバ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトハ出来ヌ、即チ抵當權ト一般ノ先取特權ト不動産ニ付テ孰レカ先キニ行ハルルカト云フ、登記ノ前後ニ依ルコト謂ハキ、サウス、即チ此點ニ於テハ抵當權ト一般ノ先取特權ト云フモノハ詰リ同等ノモノデアル、抵當權デモ先取特權デモ先キニ登記シタモノガ詰リ優先ノ權利ヲ持ツ、特別ノ先取特權ハドクデアルカト云フト不動産質買ノ先取特權是ハ矢張登記ノ順位ニ依ルト云フコトニ爲ルナゼカナレバ質買ト同時ニ登記ヲシマセバ、此先取特權ハ第三者ニ對シテ效力ガナイ、ソコデ詰リ抵當權ヨリ先キニ質買ノ登記ヲシト同時ニ此質買ノ先取特權ノ登記ガナケレバ抵當權ニ先ヅコト由來ヌ、シテ見ル

是モ詰リ同等ノモノデアル先ニ登記シタ方ガ勝ツ、唯リ不動産保存ノ先取特權ト不動産工事ノ先取特權トハ法律ノ規定ニ依テ登記ヲ爲ス以上ハ經令其登記ガ抵當權ノ登記ヨリ後デアラモ順位ニ於テハ先取特權者ノ方ガ優先ノ權利ヲ持ツ、抑テ質權ハ如何ト云フニ是ハ全ク登記ノ順位即チ抵當權ト同等デアラモ先キニ登記シタ方ガ勝ツ、以上述べタルコトヲ綜合シテ見ルト云フト、不動産保存ノ先取特權ト不動産工事ノ先取特權トハ抵當權ヨリモ優先デアアル、其他ノ先取特權ト不動産質トハ抵當權ト同等デアアル、即チ登記ノ順位ニ依テ其優先ノ順序ガ定マルト斯ク云フニトニ爲ラ居ル、是ガ第一ノ抵當權ハ物ノ代價ニ付テ他ノ債權者ニ先テ辨濟ヲ受クルコトガ出來ルト云フ事柄デアリマス、尙ホ詳シイ事ハ後ニ效力ノ處デ申上グマス、第二ノ占有ヲ必要トシナイト云フコトニ付テ聊カ説明ヲ致シマス、先ヅ此點ガ抵當權ノ經濟上必要ナル所以デアラ、羅馬ナドデハ初ハ抵當權ヲ認メナカッタ、併ナガラ矢張經濟上ノ必要カラ遂ニ之ヲ認ムルニ至ッタ沿革上カラ言

ヘバ質權ハ抵當權ヨリ先キニ發達シタモノデアアル、是ハ普通人ノ考カラ致シマシテ質權ガ擔保ト爲ルト云フコトハドンナ幼稚ナ時代ニ於テモ分ル、債權者ノ所有物ヲ債權者ガ占有シテ居ラ、若シ債權者ガ其債務ヲ履行シナケレバ其物ヲ返サナイ、益、履行シナイト極クアラバ之ヲ賣ラテ其代價ニ付テ辨濟ヲ受クルト云フノハドンナ幼稚ナ時代デモ直グニ考ヘ附クコトデアアル、之ニ反シテ抵當權ハ如ク債務者ガ占有シテ居ル、其レニ付テ債權者ガ優先權ヲ持ツト云フコトハ稍々進歩シタル社會デナケレバ殆ド想像モ出來ヌコトデアアル、債權者ガ占有シテ居ルカラ他ニ賣ラテ仕舞フカモ知レヌ、益、債務ヲ履行シナイト云フトキニ其物ヲ渡セト云ウラモ渡サヌカモ知レヌ、其レ故ニ極メテ不確ナモノデアルト云フ考ガ起ルケレドモ其代リ經濟上カラ云テ見ルト質位イ不經濟ナモノハナイ、質物ハ債權者ノ占有ニ在ルカラシテ債務者其他ノ質權設定者ガ之ヲ利用スルコトハ出來ヌ、債權者モ多ク場合ニ於テ之ヲ利用スル、其トハ出來ヌ、尤モ不動產質權在テハ之ヲ利用スルコトヲ許シテ居ル例ハ少カラヌ、現ニ我法典ニ於テモンデラ許シテ居リマスガ、併シ其利用ノ範圍ハ狭イ所有者ノ如クニ之ヲ自由

ニ此分スル所ニハイカス、其上ニ質權ハ或時期ノ後消滅スルモノトシテ、質權者ガ之ヲ利用スル場合ハ唯現在ノ儘ニテ得ル利益ヲ得ヤウト云フコトヲ圖ルニ過ギズシテ、益之ヲ改良シテ出來得ルモノ多ク、利益ヲ得ヤウト云フコトヲ力ムルト云フコトハ到底望ムルニ故ニ經濟上ヨリ當ヘバ質權ハ望ミシモノデナイ必要已ムヲ得スカラ之ヲ認メテ居ルノデアラフ、無クテ濟ムモノナラバ質權ハ經濟上望ミシモノデナイモノデアル、殊ニ質權者ノ方カラ云ウテ見テモ他人ノ物ヲ保管シテ居ルコトハ往往ニシテ不利益デアル、遂ニ滅失スル、他人ノ物デアルカラ毀損シテハナラス、改良シテイマデモ保存ハシナケレバナラズト云フカラ責任ガアル、ソコデ其點ノミカラ言フト質權ト云フモノハ誠ニマラズモノデアル、債務者ノ爲メニハ物ヲ利用スルコトガ出來スカラ不利益デアル、債權者ノ爲メニモ物ヲ保管シテケレバナラズト云フカラ不利益デアル、國家ノ經濟カラ云テ見ルト物ガ改良シラレナイ、動産スレバ物ガ惡クナルト云フカラ不利益デアル、惡クナラズマデモ十分ノ用ヲ爲サス、ソレカラ遂ニ抵當ト云フモノヲ考ヘ附イタノデアル

抵當ハ總テ只今申上ダタ所ノ弊害ヲ避ケルコトガ出來ル物ヲ抵當ニ入ルヲモ債務者ハ之ヲ利用スルコトガ出來ル、土地ガ抵當ニ進入ヲ居テモ其ノ耕作シ其上ニ建物ヲ建テ又ハ其土地ヲ人ニ貸スト云フヤウナコトハ總テ自由自在ニ出來ル、故ニ債務者ハ十分ニ之ヲ利用スルコトヲ得ルト云フ利益ガアル、債權者ニ於テモ保管ノ義務モ何ニシテ、故ニ債務不履行ノ場合ニ抵當權ノ目的物ヲ賣却シテ其代價ニ付テ辨濟ヲ受ケルコトガ確カデアルナラバ此位ノ利益ハモノハナイ、保管スル世話ハ少しシテ而倒ガナイ、國家ノ經濟上カラ言ウテ見ルト云フト債務者ガ十分ニ物ヲ利用ヲ爲スモノヲ得ルカラシテ即チ自分ノ物デアルカラ出來ルダケノ改良ヲ加フルデアラウ、物が少しシテ間斷ナク相當ノ用ヲ爲スデアラウ、所謂實シ持腐レト云フ弊ガオオ、故ニ是ハ餘程都合ノ好イモノデアル、此點ガ質權ト抵當權ノ分ル所、即チ抵當權ハ占有ヲ要シナイ設定ニ付テモ要セズケレバ其繼續ニ付テモ必要トシナイ、唯之ニ伴フ結果ハ若シ制度ガ不完全デアアルト不確實デアアル、債務者ガ占有シテ居ル所デアルガ其利、他人ニ賣ルカモ知レズ、其上ニ如何ナル權利ヲ設定スル所モ分ラナイ、質權者ハ債

權者ガ之ヲ占有シテ居ルノガアルカラ、債務者ガ之ヲ自由ニ賣ルコトハ出來、
 隨テ確實デアル羅馬ニ於ケル有様ニ申上グハスル所經濟上ノ必要カラ抵當權
 ト云フモノハアツタ、併シテガ十分ノ發達ヲシナカッタ不動產ニ付テモ質權ト抵
 當權ト云フモノハ始終並ニ行ハレタ居テ、セカト云ヘバ抵當權ニ付テ登記ナ
 ント云フコトハイラナカラ、コレデスカラ抵當權設定ノ後抵當權ノ目的物ヲ他
 人ニ賣却シタト云フヤウカ場合ニ其賣却ノ方十分ニ效力アラシムルト云フ
 ト抵當權ハマルデナイモノニ爲ル債務者ガ惡意ナラバ何ノ役ニモ立たズ、ソレ
 カラ若シ抵當權ノ方十分ニ效力ヲ持タセヨトスルト不動產ノ賣買ト云フ
 モノハ殆ド出來ナイ、羅馬ノ制度ハ此點ニ於テ非常ニ不完全デアッタ、歐羅巴ノ諸
 國ニ於テモ僅カ百年前マデハ殆ド其通りノ有様デアッタ、歐洲一般ニ言フト十九
 世紀ニ爲ラカラ登記ト云フ制度ガ行ハレタ始メテ此抵當權ガ確實ニ爲ッタ、抵
 當權ガ確實ニ爲ルト同時ニ不動產ノ一切ヲ取引ガ皆確實ニ爲ッタ、今日デハ抵當
 ト云フモノハ結リ登記ガナケレバ行ハレズモノニヤクニ考ヘテ來タ、併シ沿革
 カラ言フト昔ハサウデナシ、登記ナシニ抵當ガ行ハレタ居タ、其抵當權ト云

新

ナモノハ極メテ不確實ナモノデアッタ、今日ト雖モ各國ノ制度ガ皆完全無缺デア
 ルトハ申サス例ヘバ佛蘭西ノ如キハマダ餘程缺點ガ多イ、我邦ニ於テハ少クモ
 近來即チ明治三十二年以降ハ登記ノ制度モ稍ヤ完備シテ參リヨシタカラ最早
 抵當權ハ餘程確實ナモノニ爲ラ來タ、即チ登記ト云スルトハ理論カラ云フト第
 三者ニ對スル條件デアル、即チ當事者間ニ於テハ登記ナクモ抵當權ハ存シテ
 居ルケレドモ之ヲ第三者ニ對抗スルニ必要登記ヲ要スル、而シテ抵當權ナル
 モノガ先刻申上グタ通り優先權ト云フコトヲ要素トシテ居マスカラ第三者ニ
 對抗ガ出來スケレバ用ヲ爲サスモノデアル、即チ他ノ債權者ニ對シテ優先ノ辨濟
 ヲ受ケルト云フノデオケレバ抵當權ノ效ハナイ、而シテ他ノ債權者ハ矢張り三
 者デアルカラ之ニ對シテハ登記ヲシナケレバ效ガナイ、即チ見ルト抵當權ガ十
 分ノ效力ヲ持ツト云フコトニ付テハ、ドウシテモ登記ト云フコトガ必要デアル、
 是ト來連シタ問題ガ即チ抵當權ハ不動產ニ付テハ存スルト云フコトデアル、
 是ハ絕對ノ理論上ノ條件デハナイ、抵當權ガ不動產ニ付テハ存スルト云フコ
 トハ性質上ノ絕對ノ條件デハナイ、其證據ニハ羅馬デハ動產ニ付テ抵當權ヲ認

ナラ居タ、我邦デモ法典ノ施行セラルルマデハ動産ノ抵當ト云フモノガ慣習上存シテ居タ、多少議論ガアリマスケレドモ私ハ少ク考ヘル、成程動産ノ抵當ハ不確デアル、抵當ニ入レテ置イテソレカラ又賣ルト斯ウ云フコトハアリ得ル併シ其レハ程度論デアル、デアルカラ理論上抵當ノ性質ガ動産ニ付テモ存スルコトヲ許サナイト云フモノデハナイ、併ナガラ實際上ニ於テハ動産ノ抵當ハ殆ド名アヲ實ナキモノデアル、私ガ金ヲ借りルニ付テ此時計ヲ抵當ニ入レル、即チ向フニ渡シハセシ、併シ萬一債務ヲ履行シナイトキニハ債務者ハ此時計ノ代價ニ付テ優先ノ辨濟ヲ受ケルコトガ出来ルト云フ約束スル、理論上ハ立派ナ權利デス、併シ私ガ此時計ヲ他人ニ賣ラ仕舞タ、其他人ガ又他ニ持ッテ行ッテ賣タト云フト債權者ハ實際此時計ヲ差押ヘテ賣ルト云フコトハ出来ナイ、土地ナラバ少クモ場所ヲ變ヘルコトガアリマス、モカウ何時デモ之ヲ差押ヘルコトガ出来ル、就中動産ニ付テ彼ノ所謂即時効善意ニシテ且過失ナキ占有者ガ占有ヲ始ムルト同時ニ物ノ所有權ヲ取得スルト云フ主義ヲ取リマス、ト云フト縱令動産ハ誰ガ持ッテ居ルト云フコトガ分ッテモ其者ハ多クノ場合ニ所有權ヲ取得シテ居ルガ

ラ債權者ガ之ヲ差押ヘルト云フコトハ出来ナイ、其レ故ニ動産ノ抵當ト云フモノハ名アリテ殆ド其實ナシ、故ニ西洋ニ於テモ日耳曼法ノ系統ニ於テハ動産ニ付テ抵當ナシト云フコトヲ法律上ノ格言トシテ認メテ居タ、今日ノ開明國ノ法律デハ大抵皆之ヲ認メテ居ル、例外ハ船舶ダケデアル、船舶ハ多クノ點ニ於テ不動産ニ類シテ居ル、之ニハ矢張登記ガアル、サウシテ船舶港ト云フモノガアリ、動イタ始メテ用ヲ爲スモノデハアルケレドモ殆ド一定ノ場所ニ固著シテ居ルノト同ジヤウニ法律上ハ取扱フコトガ出来ル、縱令何處ニ在ッテモ是ハ何何九デアル、何何號デアルト云フコトハ直グ分ルヤウニ爲ッテ居ル、故ニ種種ノ點ニ於テ是ハ不動産ト同一ニ取扱ウテアルガ、即チ登記及ビ抵當ノ事ニ付テモマルデ不動産ト同ジヤウニ取扱ウテ居ル、其レハ各國皆然ウデアル、我邦ニ於テモ矢張此ノ般ノ慣習ニ從ウテ船舶ダケハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得ルト云フコトニ爲ッテ居リマスガ、其他ハ不動産ニ限ッテ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得ルト云フコトニ爲ッテ居ル、今日デハ最早動産ノ抵當ト云フモノハ法律上「一切認メナイ」唯此處デ申上ケネバナラスコトハ私ノ信ズル所ニ依レバ抵當權ナルモノハ物

ノ上ノ權利ト言ハシヨリハ寧ロ權利ノ上ノ權利デアル、通常ノ場合ニ於テハ所有權ノ上ノ權利デアルガレバモカナレバ抵當權ハ其目的物ヲ賣却シテ其代價ニ付テ優先ノ辨濟ヲ受ケルト云フノガ其性質デアル、然レニ「物ヲ賣ル」云フコトハ據テ正確ナ言葉デアル、正確ニ言ヘバ賣買ナルモノハ常ニ權利ノ移轉ヲ目的トシテ居ル、即チ通常、或物ヲ賣ルト云フノハ或物ノ所有權ヲ移轉スルノデアラ、正確ニ言ヘバ或物ノ所有權ヲ賣ルト云フノデアル、賣却ト云フコトガ權利ノ移轉ニ爲テ居ル、代價ト云フコトガ權利ノ重モナル效力ニ爲テ居ル所ノ抵當權ヲ取リモ直チズ權利ノ上ノ權利デアル、此場合ニ於テハ所有權ノ上ノ權利デアル此理窟カラ推シテ論ジマスレバ地上權及ビ永小作權ノ如キ不動產ノ上ノ所有權ノ支分權デアル所ノ權利ハ矢張抵當ニ入ルルコトガ出來ル、所有權ガ十ノモノナラバ地上權、永小作權ハ五カ六ノモノデアル、十ノモノガ抵當ニ入レララルナラバ五六ノモノモ抵當ニ入レラレナケレバナラス譯デアルソレデアルカラ地上權、永小作權モ亦抵當權ノ目的ト爲スコトガ出來ル、
唯外ノ物權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトガ出來ナイナゼカト云フト先ヅ地役權

ハ如何ト云フニ是ハ要役地ノ所有權ト離ルベカラザルモノデアル、要役地ノ所有權ガ抵當ニ入レバ特約ナキ限ハ地役權モ共ニ抵當權ノ目的ト爲ル、併シ其地役權ダケヲ離シテ抵當權ノ目的ト爲スコトハ出來ナイ、ソレハ地役權ノ性質ガ之ヲ許サナイカラデアル、其事ハ民法ニ明文ガアル、
ソレカラ留置權ハ如何、是ハ債權ト離ルベカラザルモノデアル、或種類ノ債權ニ限テ留置權ガアル、隨テ其債權ヲ離レテハ留置權ト云フモノハアリ得ナイ、其レ故ニ債權ト共ニナラバ或權利ノ目的ト爲スコトヲ得ルガ、留置權ダケヲ離シテ或權利ノ目的ト爲スコトハ出來ナイ、而シテ債權ハ不動產上ノ權利デナイカラ抵當權ノ目的ト爲スコトハ出來ナイ、隨テ是ト共ニ留置權ヲ抵當權ノ目的ト爲スコト云フコトハ出來ナイ、
先取特權ハ如何、是モ同様デアル同ジク或債權ニ限テ先取特權ガ之ヲ擔保スル、其債權ヲ離シテハ先取特權ハ存在シ得ナイ、其レ故ニ之ヲ抵當權ノ目的ト爲スコトハ出來ナイ、
質權ハ如何、是ハ理論上カラ言ヘバ或ハ抵當權ノ目的ト爲サズモ宜イカモ知レ

スケレドニ必要ガナイ、ナモ必要ガナイカト云ヘハ是ニハ抵當權ニ關スル規定ガ準用制アル、其レ故ニ抵當權ノ上ニ更ニ抵當權ヲ設定スル必要ノナイコトヲ觀ケバ宜シ、即チ同一ノ規定ニ從テカラザル、
 抑テ抵當權ニ關シテ如何ナルコトガ規定セラレカト云スト、抵當權ナルモノハ其擔保スル債權ヲ離レテ他ノ債權ノ擔保ト爲ルコトガ出來ルト斯クアル、ナウスルト抵當權ノ上ニ抵當權ヲ設定シナクテモ或抵當權ヲ直チニ甲ノ債權カラ移シテ乙ノ債權ノ擔保ト爲スコトガ出來ル、其レ故ニ抵當權ノ上ノ抵當權ト云フヤウナモノヲ認ムル必要ハナイ、結果ハ同ジコトニ爲ル、
 從フノデアアルカラ是モ甲ノ債權カラ移シテ乙ノ債權ノ擔保ト爲スコトハ出來ル、其代リ質權ノ上ニ抵當權ヲ設定スルト云フコトハ必要ガナイカラ認メナイ、外國ニ於テハ此事ガ理論上出來ルトカ出來ナイトカ云フ議論ガ甚ダ露シイケレドモ、私ハ出來ナイノガ純然タル理論ニハ合フト思フ、何トナレバ質權、抵當權ノ如キハ或債權ノ從タル權利デアレカラ、其權利ヲ離レテハ存在シ得ナイト云フ方ガ純然タル理論ニハ副ヒマス、ケレドモ抑モ質權、抵當權ハ留置權、先取特

權ト違ウテ當事者ガ自由ニ之ヲ設定スルコトヲ得ルモノデアアル、或債權ガ其性質ニ依テ質權ヲ以テ擔保セララル、抵當權ヲ以テ擔保セララルト云フモノデハナイ、ソレデアアルカラ寧ロ之ヲ甲ノ債權カラ乙ノ債權ニ移スコトヲ許シテ置イタ方が便利デアルト、斯ウ私ハ考ヘル、外國デモ如何ナル場合ニ於テモ質權、抵當權ガ或債權カラ或他ノ債權ニ移轉シナイト云フコトハ認メテ居ラス、少クモ特殊ノ場合ニハ之ヲ認メテ居ル、然ラバ一般ニ之ヲ認メテモ少シモ差支ナイ、詰リ法律ハ社會ノ必要ニ因テ生ズルモノデアアルカラ其方ガ一般ニ便利デアアルナラバ之ヲ認メテ差支ナイノデアアル、理論ニ拘泥スルト云フコトハ立法者ノ最モ忌ムベキ所デアルト考ヘマス、
 之ヲ要スルニ質權、抵當權ノ上ノ抵當權ト云フモノハ必要ガナイカラ認メナイ、併シ他ノ不動產上ノ權利、而シテ其レハ地役權、留置權、先取特權ノヤウニ性質ノ許サザルモノハ仕方がナイガ其他ノ物權即チ所有權ヲ首ト致シ地上權、永小作權ノ上ニハ抵當權ヲ設定スルニ由來バ併シ是ハ不動產ニ限ル、
 今ニツ申上外來直度イコトハ擔當權ニ必ズ法律ヲ爲メ因テ設定セラレモノ

テアル、留置權、先取特權ノ如ク法律ノ結果ニ因テ當然發生スルモノデハナイ、是モ
抵當權ノ性質上ノ條件デハナイ、其證據ハ外國ニハ法律上ノ抵當權ト云フモ
ノモアルシ、裁判上ハ抵當權ト云フモノモアル、例ハ佛蘭西ニ於テハ無能力者
ノ利益ノ爲メ後見人ノ不動產ニ付テ法律上ノ抵當權ヲ存セラルト云フコトヲ定
メテ居ル、未成年者、禁治產者ノ財產ヲ後見人ガ管理シテ居ル、若シ後見人ガ其財
產ヲ費消シタ、或ハ過失ニ因テ此財產ヲ滅シタト云フトキニハ之ヲ賠償シナケ
レバナラス、其賠償義務ノ擔保トシテ後見人ノ所有ニ係ル一切ノ不動產ハ皆被
後見人ノ爲メニ抵當權ノ目的ト爲テ居ル、是ハ我舊民法ニ於テモ採用シテ居
タ、外國ニハ其例ニ乏シカラス、其レト同様ニ妻ガ夫ニ對シテ有スル債權ニ付テ
夫ノ一切ノ不動產ハ皆妻ノ爲メニ抵當權ノ目的ト爲テ居ル、是ハ佛蘭西ニ於テ
モ我舊民法ニ於テモサウデアル、ソレカラ裁判上ノ抵當ト云フモノモ國ニ依テ
ハアル、矢張佛蘭西ガ其一ツノ例、ソレハ或債權者ガ一ツノ判決ヲ得ル、即チ其債
權ヲ履行スベシトカ、又其債權ノ存在ヲ認ムル所ノ判決ヲ得ルカウスルト其債
權ハ當然債務者ノ所有ニ係ル一切ノ不動產ニ付テ抵當權ヲ以テ擔保セラルル

ト斯ク云フコトニ爲ルカウ云フモノモ外國ニハ其舊邦ニ於テモ施行セラル
ラレカウタガ、法律上ノ抵當ト云フモノハ舊民法ニ於テ認ムラレタ居、タ故ニ
今日ノ民法ニ於テ抵當權ハ法律行為ニ因テ設定セラルル、即チ當事者ノ意
思ニ因テ、ソノ設定セラルルト云フコトニ爲テ居ルマズカウモ、是ハ絕對
性質上ノ條件ト觀ル譯ニオイカス、唯現行法ノ制度ニ於テハ然ラズ云フ外ナ
イ即チ現行法ニ於テハ此點ガ抵當權ト留置權及ビ先取特權ト異ナル所デア
留置權先取特權ハ法律ニ效力ニ因テ當然發生スルモノデアアル、抵當權ハ法律行為
ニ因テ始メテ發生スルモノデアアル、斯ク云フコトニ爲ル、尙ホ法律行為ハ理論上
如何ナル行為デモ宜シ、併シ實際ノ適用ハ契約ト遺言トデアラウト思フ、契約ガ
最も頻繁デアラウ、遺言ハマダ遺言ヲ以テモ之ヲ設定スルコトガ出來ル、例
ハ甲ガ死亡スルニ際テ其債權者ノ一人タル乙ニ自己ノ所有ニ屬スル或不動產
ニ付テ抵當權ヲ設定スルト云フ意思ヲ遺言ニ依テ表示セテ死ス、カウスルト死
亡ノ後其抵當權ハ設立セラルル、唯第三者ニ對シテハ登記ヲ必要トスル、此點ハ
實權ト違フテ實權ハ必ズ契約ニ因テ設定セラルルナレバ引渡ト云フコ

平少賃權設定ノ要素ニ爲スル居屋引渡シタル契約ニ因リテ得テシヤ爲
 シコトハ出來ナイ故ニ賃權ハイコトニ契約ニ因リテ設定セラルル抵當權ハ之ニ反
 シテ遺言ヲ以テ之ヲ設定スル爲メ分出來ル何トナルモノ引渡シタル契約ニ
 シカラズ遺言ヲ抵當權ヲ設定セラルト云ハル其遺言ガ效力ヲ生ズル同時ニ
 即チ原則トシタル遺言者ノ死亡ト同時ニ抵當權ハ設定セラルル此點ガ抵當權
 ト賃權ト違フ一ツノ點デアアルコトハ疑ハズ遺言ハ遺言イデモ之ヲ以テ思ハ
 以上ヲ以テ抵當權ノ設定ノ御話ヲ終ラシメシタカス抵當權ガ效力ヲ論ジマシ
 抵當權ハ物權デアアル其結果トシテ第一ニ優先權ヲ生ジ第二ニ追及權ヲ生ズル
 ノデナリタマシ優先權ハ御承知ノ通り他ノ債權者ニ先テ清償ヲ受ケル權利デア
 ル追及權ハ縱令抵當權ノ目的タル權利ガ抵當權設定者以外ノ者ニ移轉シタモ
 之ガ爲メニ抵當權ノ行使ヲ妨ダレヒナイト云フコトデアアル先ヅ第一ノ優先權
 ノ御話ヲ致シマス抵當權ハ抵押物ニ因リテ生ジタル權利ナリ故ニ第一ノ優先權
 抵當權者ハ他ノ普通ノ債權者即チ何等ノ擔保權ヲ有セザル所ノ債權者ニ先チ
 ナ清償ヲ受ケルコトハ固ヨリデアアル尙ホ其上ニ擔保權ヲ有スル者其間ニ於テ

往往抵當權者ガ優先權ヲ有スルコト未ダ先ヅ論置權ニ付テ申シタル所ト留
 置權ハ一切ノ債權者ノ權利ニ先チセシメタル是ニハ抵當權者ト雖モ一歩ヲ譲ラ
 ナケレバナラス即チ留置權者ノアル場合ニ於テハ抵當權者ガ其權利ノ目的タ
 ル財產ヲ賣却致シマシタモ就落人ハ先ヅ留置權者ニ清償シタカラズデナレバ
 其財產ヲ受取ルコトガ出來マセカス隨テ留置權ニ依テ擔保セラレタル居ル所
 ノ債權ノ額ヲ控除シタルモノヲ以テ就落ノ代價ト致シマス即チ抵當權者ハ留
 置權者ニ依テ先ゼラルル所ト云フコトニ爲ルコトハ疑ハズ留置權者ハ第一
 次ニ先取特權ハ如何ト申スニ先取特權ハ中デ不動產保存ノ先取特權ト不動產
 工事ノ先取特權トハ法律ノ規定ニ依テ之ヲ登記スル以上ハ其登記ノ時期如何
 ニ拘ハラズ詳シク言ヘバ其登記ガ抵當權ノ登記ヨリ後デアツモ尙ホ抵當權ニ
 先テ行ハルルノデアアル併シ其他ノ先取特權ハ皆登記ノ順序ニ依ツテ若シ抵當
 權ガ先ニ登記シタルアルナラバ抵當權ノ方ガ却テ優先ノ權利ヲ持ツ不動產賣買
 ノ先取特權ハ賣買ノ登記ト同時ニ之ヲ登記セザレバ其效力ガ尙イ故ニ附リ此
 賣買ノ登記前ニ既ニ登記シタル所ノ抵當權ニ對シテハ先取特權ニ必ズ負ケナ

ケレバナラズ、是ハ當然ノ事デアリ、私共或ハ不勝、所有權ヲ所之ニ甲ナル者ニ抵當ニ入レテ甲ガ直チニ其登記ヲ爲シ、後乙ナル者ハ此不動産ノ所有權ヲ讓渡シタ、此場合ニ於テハ、抵當權ノ物權デアリカ、私ハ乙ニ對シテ甲ノ權利ヲ留保シタ上ナラデハ、私ノ權利ヲ讓渡ス、トハ出来、即チ所有權ヲ讓渡ス、トハ出来、而シテ出来、マヌ、ガ、是ハ、抵當權ノ附イタ儘デナケレバ、之ヲ讓渡ス、トハ出来、而シテ買主ハ先取特權ト云フモノハ何デア、云フ、買主タル私共、即チ抵當權ノ設定者デアリ、買主ニ對シテ、今ノ例ヲ乙ニ對シテ代償及ビ其利息ノ請求權ヲ持テ居ルノデアリ、利息ハ常ニ請求ガ出来、ルノデハナイ、ガ、若シ其請求權ガアレバ、ソレモ共ニ先取特權ニ依テ擔保セラレ、ル、此私ノ權利ハ、或程先取特權ヲ持テ居ルケレドモ、此權利ガ私ノ設定シタル抵當權ニ勝ツト云フコトガア、ダ、ラ、ソレ、コソ、常識ニ訴ヘテ、甚、不當ナ、コトヲ、私ガ、抵當權ヲ設立シテ置キナガラ、ソレヲ私ガ賣ルノハ、差支ナ、ス、法律ガ、許シ、賣テ、其代償私共請求スル權利ガアル、此權利ガ私ノ設定シタル所ノ抵當權ヨリモ優先ナルモノデア、ラ、ダ、ソ、レ、コソ、非常ナ、不當ナ、コトデア、ル、サ、云、フ、コトハ、法律ガ、規定シタル、故ニ、此場

合ニ於テハ、詰リ登記ノ順位デア、ラ、今ノ場合ニ於テ甲ハ先取特權ヲ持シ、乙ハ其權利ガ私ノ先取特權ヨリモ優先ナルモノデア、ラ、其代價ニ乙ガ更ニ丙ノ爲メニ抵當權ヲ設定シタルノ登記ス、ル、ト云フ、トキニハ、此登記ハ必ズ私ノ先取特權ノ登記ヨリ後デア、ル、ト云フ、モノハ私ノ先取特權ノ登記ハ買主ノ登記ト必ズ同時ニ之ヲシナケレバ、ナラズ、ノデア、ル、隨テ此場合ニハ丙ノ權利ハ私ノ乙ニ對スル權利、即チ私ノ先取特權ヨリハ劣等ナルモノデア、ル、私ノ方ガ優先權ヲ持ツ、丁度ソレハ登記ノ順位ニ爲、ル、ト云フ、事柄モ、誠ニ至當デア、ル、ガ、民法ガ規定ノ上デ其通りニ爲、テ居、ル、次ニハ一般ノ先取特權是ハ御承知ノ通り先取特權ガ債務者ノ一切ノ財産權ノ上ニ存ス、ル、ノデア、ル、隨テ債務者ノ所有ニ屬ス、ル、不動産ノ上ニモ存ス、ル、ノデア、ル、此先取特權ハ抵當權ト如何ナル關係ガアルカト云フ、ト、是ハ全ク登記ノ順位ニ依、ル、コトニ爲、テ居、ル、故ニ一般ノ先取特權ハ抵當權ヨリモ先ニ登記シタルア、ダ、ナ、ラ、バ無論先取特權ノ方ガ抵當權ニ勝ツ、併シ抵當權ガ先ニ登記シタルア、ダ、ナ、ラ、バ抵當權ノ方ガ勝ツ、總テ登記ノ順位ニ依、ル、ニシテ、第三ニハ質權是ハ不動産ニ付テハ抵當權ニ類ス、ル、規定ヲ準用ス、ル、ト云フ、

居ル其結果トシテ抵當權ト質權ト併シテ登記ノ順位ニ依リ其權利ノ先後ガ定マル例ヘバ甲ノ抵當權ガ第一ニ登記シタルヲ乙ノ質權ガ第二ニ登記シタル丙ノ抵當權ガ第三ニ登記シタルアリ質權ガ第四ニ登記シタルト云フヤウナ場合ニハ第一抵當權第二質權第三抵當權第四質權ト云フヤウナ順位ニ依リガ行ハルル然レタ登記ノ順序ニ依リ登記ノ順位ニ依リ早タ登記シタル權利ガ先ニ行ハルル如何ナル抵當權ト雖モ苟モ登記シタル以上普通ノ債權ヨリハ先ニ行ハルル併シテ同ジク登記シタル抵當權ノ中ニ於テハ登記ノ順序ニ依リ其先後ガ定マルト云フコトニ爲ラ居ルハ其ノ理ハ明白ナリ然レタ以上ヲ以テ優先權ノ御話ヲ概略シテマシタル是ヨリ追及權ノ御話ヲ致シテス追及權ト云フモノハ抵當權設定者ガ其抵當不動産ヲ他人ニ讓渡シタル場合ニ於テ抵當權者ガ其權利ヲ保護スル爲メ對シテ行フコトヲ得ルヲ謂フニテ其例ヲ以テ申スト私ガ甲ナル者ニ私ノ所有ニ屬スル不動産ニ抵當ニ入レタ其後乙ナル者ニ私ガ其不動産ノ所有權ヲ讓渡シタル此場合ニ於テ甲ハ私ニ對シテ乙

ニ對シテハ其抵當權ヲ行フコトヲ得ルト云フコトガ是ヨリ追及權デアリ原則ニ依リテ是ハ疑ノナクコトデアル然レタ權利ノ全部ヲ讓渡シタルキデモ抵當權者タル甲ハ讓受人ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得ルガ故ナリ然レタ權利ノ一部ヲ讓渡シタル者ニ對シテハ無論抵當權者ハ其抵當權ヲ行フコトヲ得ルンデアル例ニテ私ガ乙ナル者ニ私ノ所有地ノ上ニ地上權ヲ設定シタル永小作權ヲ設定シタル若クハ地役權ヲ設定シタル此場合ニ於テ抵當權者タル甲ハ其地上權者永小作人又ハ地役權者ニ對シテ矢張其抵當權ヲ行フコトヲ得ルンデアル苟モ其抵當權ノ登記ガ地役權永小作權地上權等ノ登記ヨリ先ニ行ハレタナラバ抵當權者ノ眼ニハ地上權等ハ全ク設定セラレナカッタノ同ジコトデアル其結果トシテ債務者ガ履行ヲ爲サザルニ當リテ抵當權者ハ其不動産ヲ賣却スルモノトガ出來ルデウレタ賣却ヲ爲スニ當リテ地上權永小作權地役權等ガ存在セザルニテ之ヲ賣ルコトガ出來ル鮮シク言ハレ脱賣ノ就落人ハ完全ナル所有權ヲ取得スルンデアル其地上權其他ノ權利ヲ總ルニ讓渡シタル類ガイフコトアル若シ是ガ抵當權設定前ニ存シテ居タルナラバ其前ニ既ニ登記シタルナラバ抵當權者ハ固ヨ

ヲ抵當權ノ作用トシテ其物ヲ賣ルコトガ出來ル時シテ當ヘバ其物ノ所有權ヲ賣ルコトガ出來ルケレドモ地上權其他ノ支分權ハ依然トシテ存シ居ルモノアル隨テ實際ハ競賣ヲ競得人ガ其レ等ノ權利ノ價ニ相當スルガク安ク買フコトニ爲ル然ルニ只今ノ例ニ於テ抵當權ノ登記ノ後ニ此等ノ權利ノ登記ノ場合ニハ賣ルデ之ヲ無視シテ賣ル競賣ヲ爲ス可トガ出來ル是ガ即チ追及權ノ作用デアラビテ競賣ノモノヤカニ同クロイマセ其結果イデ競賣之ニ對スル一ツノ例外ハ賃借權ニアリ是ハ二重ニ例外デアアル第一賃借權ト云フモノハ物權デハナイ債權デアアル債權ハ當事者間ニ於テノ效力ヲ有ルモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルモノト出テオイモラズ然ルニモ拘ナラズ唯リ不動產ノ賃借權ハ若シ之ヲ登記スルトキハ第三者ニ對シテモ其效力ヲ及ボスコトガ出來ル是ガ一ツノ例外デアアル併ナガラ是ハ抵當權ノミニ關スル例外デハナイ所有者ニ對シテモ地上權者ニ對シテモ永小作人ニ對シテモ地役權者ニ對シテモ皆存シ居ル所ノ例外デアアル蓋シテ競賣ノモノイデモ抵當權ニ關シテ一ツノ例外ガ特ニ抵當權ニ關スルモノデアアル是ハ何デア力ノ一般原則ヨ

リ言ヘバ抵當權設定ノ後ニ其目的物ニ關シテ如何ナル權利ガ發生シヤウトモ如何ナル權利ガ設定セラレヤウトモ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトハ出來ヌ筈デアアル然ルニ唯リ賃借權ハ或條件ヲ以テ之ヲ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得ルノデアアル其條件ハ二ツアルノデス一ツハ民法ノ第六百二條ノ期間ヲ超ニザルモノ即チ山林ノ賃貸借ハ十年其他ノ土地ノ賃貸借ハ五年建物ノ賃貸借ハ三年此期間ヲ超ニザル賃借權ハ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトガ出來ル今一ツノ條件ハ抵當權者ニ害モザルコトヲ要スル第三百九十五條ノ但書ニアリ若シモ賃借權ガ抵當權者ニ損害ヲ及ボス場合ニ於テハ裁判所ハ抵當權者ノ請求ニ因テ其賃貸借契約ノ解除ヲ命ズルコトガ出來ル此二ツノ條件ヲ以テハ賃借權ハ縱令抵當權登記ノ後ニ登記シタルモノト雖モ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトガ出來ルノデアアル是ハ何故デアアルカソレハ抵當權ナルモノハ其目的物ノ代價ニ付テ優先權ヲ與ヘルモノデアアルケレドモ物ハ占有ヲ奪フモノデハナイ其目的物ハ依然トシテ抵當權設定者ノ占有ニ殘シテ置タベキモノデアアルソレデコン質權ヨリハ此方ガ便利デアアル然ルニ所有者ハ必ズシモ自ラ物ヲ

利用ハルコトハ出来ス、土地ト雖モ自ラ之ヲ耕作スルコト云フコトハ出来ス、自ラ其上ニ建物ヲ設ケルコトハ出来ス、云フ場合ガアル、建物モ自ラ之ニ住フコト云フコトハ出来ス、云フ場合ガアル、此場合モ如何ニ之ヲ利用スルコト云フト詰リ他人ニ賃貸スルノ外ハナイ、田畑ナラバ之ヲ小作人ニ任シテ小作料ヲ取ルノ外ハナイ、宅地ナラバ之ヲ人ニ賃シテ家ヲ建テシムルコト云フノ外ハナイ、或ハ家ヲ建テ居ルナラバ其レニ人ヲ住ハス爲メニ貸スノ外ハナイ、サウモ思ヘバ利用ガ出来ナイ、而シテ現今日本ノ慣習カラ言フニバドウカ知リテモ其ガ段權利思想ガ發達シテ来ル以上ハ他人ニ土地若クハ家屋ヲ貸スト云フ場合ニ一定ノ期限ヲ以テ之ヲ貸スニ非ズレハ高イ借賃ヲ出シテハ人ガ借リス、何時追出サルルカ知レスト云フキナ條件デハ高クハ人ガ借リス、日本デモ權利思想ガ發達スレバ必ズサウ爲ル、故ニ山林ナラ十年、樹木植エマシタモ五年、十年經タスケレバ役ニ立タス、其他ノ土地ナラ五年、建物ヲ建タルノモ五年デハ役ニ立タス位デアル、其位ノ期間ヲ以テモ思ヘバ高イ借賃ヲ以テ借りル者ハ大イト云フコトニ日本デモ爲ルダラカ思フソレデ總令不動産ガ抵當權ノ目的ニ

爲テ居ラゲトモ所有者ニ於テ其不動産ノ利用ヲ爲スコトニ付テ何等ノ妨ヲモ爲シテハナラズト云フ以上ハ此位ノ期間ヲ以テハ自由ニ賃貸借ヲ爲シ得ナケレバナラズソレデナケレバ占有ヲ抵當權設定者ニ殘シテ置イタ甲斐ガナイ、故ニ苟モ抵當權者ニ損害ヲ及ボサザル限ハ、而シテ其意味ハ餘リ賃貸ガ安クナケバト云フコトニ爲ル、餘リ賃貸ガ安クレバ必ズ抵當權ニ損害ヲ及ボスト云フモノハ不動産ヲ賣ルトキニ安ク賣レル、故ニソレハ解除スルコトガ出来ルケレドモ、相當ノ借賃若クハ相當ノ借賃ヨリ高ク所ノ借賃ヲ以テ之ヲ貸シテアル以上ソレヲ抵當權者ガ無視スルコトハ出来スト、斯ウ云フノデアル、唯期間ノ長キモ失スルモノ、即チ今申上グタ期間ヨリ長イモノハ現在ハ總令抵當權者ヲ害スベキ性質ノモノデナイニシテモ長イ中ニハ必ズ邪魔ニ爲ル、又借賃ハ總令安クナイニシテモ餘リ長イト云フト其不動産ヲ賣ルニ當テ必ズ安ク賣レルニ相違ナイ、ナゼナレバ買取ッ人ハ自ラ其不動産ヲ利用シタイト云フ者モ澤山アル、ソレガ十五年二十年ト云フヤウチ長イ期間ヲ以テ貸シテアルト云フト其間ハ利用ガ出来ス、借賃ハ相當ノ借賃ガ取レルニシテモソレデハ買手ノ方デハ

全く自由ノ不動産ヲ買フヨリモ安ク買ハナレバ合ハナイ故ニ長イ期間デハイ
カス短イ期間ナラ宜シイト云フコトニ爲テ居ル
是ガ抵當權ガ追及權ヲ生ズルト云フ事柄デアリマスガ是ヨリ進ンデ此追及權
ニ法律ガ多少ノ制限ヲ加ヘテ居ル其制限ノ御話ヲ致シマス
是ハ一口ニ申スト濫除權ノ事デアル即チ抵當權ノ目的物ガ第三者ニ移轉シタ
場合ニ、第三者ガ或條件ノ下ニ於テ其抵當權ヲ消滅セシムルコトガ出來ルト云
フコトデアル是ハ多クハ賣買ノ場合ニ適用ガアル、ソコデ先づ依然タル濫除權
ノ御話ヲスル前ニ廣イ意味ニ於テハ矢張濫除權ト云テモ宜イモノガアルソレ
ヲ御話申シマス

第一點ハ賣買ニ限ルコトデアアル抵當不動産ニ付テ所有權又ハ地上權ノ賣買ノ
アツタ場合其場合ニ抵當權者カ買主ニ對シテ代價ノ請求ヲ爲シタ場合ニハ若シ
買主ガ其代價ヲ支拂ウタナラバ最早抵當權者ハ其買主ノ權利ヲ認メナイト云
フコトハ出來ナイ買主ノ爲メニハ抵當權ハ消滅シタモノト看做サルノデア
ル是ハ至當ノコトデアルト思フ抵當權者ハ畢竟物ヲ賣テ其代價ニ付テ辨済ヲ

受ケルト云フノガ目的デアアル競賣ニ付シタ所ガ不動産ガ必ズ高ク賣レルトハ
限ラス實際ノ事ヲ言フト競賣ハ相對ノ賣買ヨリモ事ロ安ク賣レルヲデス故ニ
相對ノ賣買ノアツタトキニ抵當權者ガ買主ニ向テテ代價ノ請求ヲ爲スト云フノ
ハ取リモ直サズ其代價ニ満足シテ居ルト云フコトデアアルソレデスカラ代價ヲ
請求シテ受取タ其不足額ガアルカラト申シテソレヲ受取ル爲メニ更ニ又不動
產ヲ賣テ 總令自分ノ權利ガ先ニ登記シテアルニシタモ更ニ其レヲ賣却レテ
代價ノ中カラ不足額ヲ受取ラウト云フコトハ無理デアアル殆ド是ハ二重ニ一ツ
ノ物ニ付テ權利ヲ行フヤウナモノデアアルソレハ法律ガ許サズ地上權ハ所有權
ト違ヒマシテ所有權ガ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ地上權ノ代價ヲ受取タカ
ラト云テソレデ債權者ガ満足シテ居ルト云フコトハ無論ナイコトデアアル故ニ
此場合ニ於テハ更ニ抵當不動産ノ所有權ヲ賣テ其代價ニ付テ殘額ノ辨済ヲ受
タルコトガ出來ル去ナガラ地上權者ニ向テテ抵當權者ガ代價ノ辨済ヲ請求シタ
場合ニハ恰モ其地上權ノ賣買ヲ承認シタモノト看ナケレバナラス此場合ニ於
テハ初メ所有權ノ賣買ノ場合ニ於ケルガ如ク詰リ債務者ニ代テ或ハ抵當權設

定者ニ代テ其代價ヲ請求シタモノデアル買主ハ之ニ辨濟ヲ爲シテハスレバ其抵當權ハ最早自己ニ對シテ行ハルルコトハナイモノデアルト斯ウ思フシデア
ルソレデアアルカラ抵當權者ガ其不動産ヲ賣却シテモ地上權ハ失張之ヲ留保シ
ナケレバナラス地上權ヲ害セザル範圍内ニ於テ之ヲ賣ラナケレバナラス或ハ
スレバ競落人ハ地上權ヲ認メテ而シテ其所有權ヲ買取ラナケレバナラス或ハ
ソレダケ安ク買フデアリマセウソレハ仕方ガナイ抵當權者ハ其競落代價ニ付
タノミ不足額ヲ請求スルコトガ出來ル地上權者カラ代價ヲ受取ラソレデ足ラ
ス所ダケヲ競落代價ノ中カラ取ル競落人ハ前ノ地上權即チ抵當權設定後ニ登
記シタル所ノ地上權ヲ認メツラ不動産ヲ買取ラチバナラスト云フコトニ爲ル
尙ホ此事ハ抵當權ノ目的ガ所有權ニ非ズシテ地上權者クハ永小作權デア
ル後ニ其地上權ヲ他人ニ讓渡シタトキニハ抵當權者ガ其讓受人其レガ買主デ
アルト假定シマシテ買主ニ對シテ代價ヲ請求スルコトハ固ヨリ出來ルザクシ
テ其請求ニ因テ最早抵當權ハ其者ニ對シテ消滅スル永小作權ノ賣主モ亦同様

デアアル是ハ準用スルノデスカラ丁度今マデ所有權デ申シタ事柄ガ此地上權者
クハ永小作權ニ依ル地上權ノ上ノ地上權永小作權ノ上ノ地上權ト云フモノハ
アリ得マセスカラ則チ前ニ申シタ地上權ノ事ハ依リ様ハナイ所有權ノ事ガ準
用セラ
以上ハ純然タル消滅ノ事デハナイ併シ代價ノ辨濟ニ依テ抵當權ガ消滅シマス
カラ廣イ意味ニ於テ之ヲ消滅ト云クテモ差支ナイト思フ是ヨリ純然タル消滅
ノ御話ヲ致シマス
消滅ト云フノハ抵當不動産ニ付テ權利ヲ取得シタル第三者其權利ハ所有權永
小作權又ハ地上權デア
ル此等ノ權利ヲ抵當不動産ニ付テ取得シタル者ハ或條
件ノ下ニ於テ直接ニ抵當權ヲ消滅セシムルコトガ出來ル即チ不動産ヲ消滅
當權ヲ除クト云フノデ之ヲ「消滅」ト云フ其條件如何ハ簡單ニ申スト云フト
第三取得者第三取得者ト云フノハ抵當不動産ニ付テ或權利ヲ取得シタル者此間
題ニ付テハ所有權地上權又ハ永小作權ヲ取得シタル者今後之ヲ第三取得者ト
云フガ一定ノ金額ヲ提供シテ其金額デ抵當權者ガ承諾シタナラバ其レニ依テ

抵當權ガ消滅スルノゾアル賣買ノ場合ニハ通常ハ其代價ヲ提供スル不動産ヲ抵當權ノ目的ト爲シタル場合ニ其不動産ヲ買入ハ賣買契約ニ因テ決定ス居ル所ノ代價一萬圓ヲ買入ト云フナラバ其一萬圓ヲ提供スルト云フノガ普通ナルケレドモ此代價ヲ提供スルト云フコトガ條件デハナシ其時トシタル第三取得者ガ不當ニ高ク不動産ヲ買入コトガアルナクシテ代價ノ全部又ハ一部ヲ既ニ賣主ニ拂フコトガアル是ハ種ナ場合ダケレドモナク云フコトモ想像シ得ラルル例ヘバ誤ラテ抵當權ノアリタコトヲ知ラナカドトキニ斯ウ云フ事ハ随分アリ得ル斯様ナル場合ニ於テハ第三取得者ガ消除ヲ行ハウト思フノニ賣買ノ代價ヲ提供スルト云フコトハ苦シイコトデアル二重拂ヲシナケレバナラヌ譯デアアルナクシテ若シ抵當權者ガ其不動産ヲ公賣シタルバ到底其直段デハ賣レナイ即チ一萬圓ヲ買入タケレドモ其全部又ハ一部ハ既ニ拂ウテ居ル所デ之ヲ公賣ニ付シタルバ八千圓ニシカ賣レナクモナイト云フ其トキハ第三取得者ハ八千圓シカ提供シナドアラウト思フソレデ差支ナイ是ハ併ナガラ稀ナ場合デスト云フモノハ抵當權ノ存シテ居ル場合ニハ登記デ以テ知レル其知レテ居

ル以上モハ代價ヲ賣主ニ拂渡サルト云フコトハ通常ニシカケレドモ此場合ト反對ノモノトハアリ得ル買入八千圓ヲ買入タケレドモソレハ大變安キ公賣ニ付シタルモ或ハ一萬圓ニ賣入ルモ知レルト云フコトガズル此場合ニ於テハ第三取得者ガ八千圓ヲ提供シタルモ抵當權者ガ承知シタルモナイ故ニ此場合ニハ一萬圓ヲ提供スルト云フコトハ尠少シモ妨グス況ヤ譲受人ニ必ズ此モ賣主デハナシズスカ賣買代價ト云フモノハオキエトガアル或ハ交換デアル或ハ贈與デアル新様ナル場合ニ於テハ第三取得者自己ニ承知スル金額ヲ提供スルノ外ナシソレカラ第三取得者ガ地上權者或ハ永小作權ノ取得者デアルトキハ於テハ其ウシテ抵當權ハ所有權目的トシテ居ル場合ニ於テハ到底地上權ヤ永小作權ハ賣買代價ヲ提供シタル所ガ抵當權者ガソレヲ承知スル氣遣ハナイ必ズ所有權ハ價ニ相當スル金額ヲ提供シナケレバオケル此等ノ金額ヲ提供シタル場合ニ於テハ抵當權者ガソレヲ承知スル即チ其金額ニ満足スル所ト云フトキニソレデ直ニニ消除權ヲ行ハル若シ之ヲ承諾シオイト云フタラバソレデ直ニ其承諾ハ抵當權者ハ必ズ増價就賣ト云フモノヲ請求シナケレバオケル諸ノ

増價就賣ヲ請求シテオナラシムル必ズ其提供ヲ承諾シテ受取ルナラス増價就賣ト
ハ如何ナルモノデアルカ、是ハ誰受入ガ提供シタル金額ヨリモ一割以上高ク賣
ルト云々約東ヲシテ、サウシテ其就賣ヲ請求スルモ、第三取得者ガ一萬圓
ヲ提供シタル場合ニ於テ抵當權者ハ必ズ是ハ一萬圓ニ賣ル見セシメ、ソレヨリ
高ク賣ルトモ必ズ安クハ賣ラズト、斯ク云フコトヲ官ハナケレバナラズ、ソレデ
増價就賣ト云フ、ナゼサウ云フコトニ爲テ居ルカト云フト、是ハ先ダ法律ハ一割
位ハ費用ニ掛ルモノトシテアル、デスカラ一割以上高ク賣ルセシメ就賣ニ付
シテモ詰リ損デアルト看テ居ル、ソレデ一割以上増價就賣ト云フコトニ爲テ、
サウシテ是ガ間接ニ減除ヲ獎勵スルロトニ爲ル、法律ノ見ル所ニ依レバ荷モ抵
當權者ハ損害ヲ加ヘナイ限ハ減除ヲ行ハシメタ方ガ宜イ、第三取得者ニ取テハ
折角買テタモノデアル折角賣タモノデアル、之ヲ取上グラルルノハ誠ニ辛イノ
デアル、ドウゾソレハ抵當權者ニ違リタナイト、斯ク云フンガ人情デアル抵當
權者ノ方デハドウカト云ヘバ詰リ金ヲ賣ヘバ宜イノデアアル就賣ト云フ所、所
ヲ賣ルノデアル、故ニ代價ヲ賣ルハ違リタ損害ヲ受ケルコトナイ、サウスル

ト相當ノ代價ヲ債權者ガ受取ルコトガ出来ルヲテ、抵當不動産ヲ就賣ニ付
スルト云フヤウナコトハモス方ガ雙方利益デアアル、斯ク法律ハ看テ居ル、ソ
レデ減除ト云フモノヲ許シテ居ル、然ルニ若シ其條件ニ就賣ヲ請求スルコトガ
出来ルモノトシタナラバ抵當權者ハ或ハ私慾ノ爲メニ眼ガ眩ンダマダ是ヨリ
モウ少シハ高ク賣レサウナモノデアアルト云フ慾心カラ溢ル就賣ヲ請求スル、或
ハ感情ノ上カラ第三取得者ガ抵當權ヲ消滅サセタイト云フガ是ハドウモ不都
合デアアル、少シ位損ヲシテモ宜イカラ就賣ニ付シテヤラウト云フヤウナコトモ
ナイデモナイ、要スルニ何等ノ制限モ附サナカッタナラバ減除ト云フモノハ行ハ
レズコトガ多カラウ、サウシテ實際就賣ト云フコトニナルト今申上グタ通りナ
カナカ費用ガ掛ル、不動産ノ就賣ハ猶更然ル、ソレデ法律ハ必ズ一割位ハ掛ルト
看テ居ル、故ニ少クモ一割位高ク賣ラナケレバ折角就賣シタ甲斐ナイ、一萬圓
提供シタル場合ニ一萬圓ニ就賣スルサウ云フコトヲ入費ダケ損而シテ其責任ヲ就賣
ヲ請求シタル抵當權者ニ負ハシメナケレバ誰ガ其損失ヲ負擔スル、第三取得者
ハ折角一萬圓出シタソレデ抵當權ヲ消滅サセタイト云フ、サウモ、ソレハ許サズ、サ

タシテ就賣賣者其結果一萬圓ヲ取テカケル、第三取得者ハモゾ其利益ヲ得
タレル、サウシテ就賣ヲ請求シタ抵當權者ハ自業自費デアルガ、他ノ債權者ハ迷
惑デアル、若シ一萬圓ヲ渡シナラバ外ノ債權者ガ満足シ難シ、受沙シテ知レ
ス、九千圓デハ甚ダ不満足シ難シ、辨濟ヲ受ケルト云フモ、爲ルカ知レヌ、一萬圓
念ノ爲メニ申上グマスガ、此増價就賣ヲ請求スル抵當權者ハ云フモ、ハ必ズレ
モ第一ノ抵當權者デハナイ、第二ノ抵當權者デモ第三ノ抵當權者デモ増價就賣
ヲ請求スルコトガ出来ル、所デ假ニ抵當權者ガ二人アル、第一ノ抵當權者ノ債權ハ
一萬圓デアル、ソレヘ丁度一萬圓提供シタ、其儘デ濟スト、第一ノ抵當權者ハ完全
ナル辨濟ヲ受ケルコトガ出来ル、所ガ第二ノ抵當權者ガソレデハマラヌ、自分ハ
何等ノ辨濟ヲモ受ケルコトガ出来ヌ、之ヲ就賣シカケルバ一萬一千圓位ニ賣レタ
ウナモノダ、サウスレバ自分モ千圓位賣ヘルト、斯ウ思フ、就賣ヲ請求シタ、豈ニ圓
シヤ九千圓ニシカ賣レナカッタ、又ハ一萬圓ニ賣レタ、費用ヲ引キテ九千圓シカ
殘リス、サウスルト第一ノ抵當權者其爲メニ一萬圓ハ其儘使テ引キテ九千圓シカ
ス、故ニ是ハ就賣ヲ請求シタ債權者ハ十分ノ責任ヲ持テ、其儘使テ引キテ九千圓シカ
ス、

ニ於テモサウデアルシ、又撤除ト云フモノヲ必要ト認メタ方カラ考ヘテモ此ノ
如キ責任ヲ就賣請求者ニ持タシテ置カスト云フト蓋ニ請求スル處ガアルト云
フノデ増價就賣ヲ請求シタ抵當權者ハ若シ一割以上高ク賣ルコトダ出来ナカラ
タナラバ自分ガ引受ケル、自分ガ買受ケル、一割増ノ代價ヲ以テ即チ一萬圓ノ
提供ノアタトキナラ一萬一千圓デ自分ガ引受ケルト云フ約束ヲシナケレバナ
ラス、斯ウ云フコトニ爲テ居ルソレニ付テハ擔保モ供サナケレバナラス、唯之ニ
對シテ抵當權者ガ外國人デアッタトキニハ今日ノ法律デハ外國人ハ土地ノ所有
權ヲ取得スルコトガ出来マセスカラソレデ特別法ガ出来マシテ、明治三十二年
ニ特別法ガ出来マシテ、ソレニ依テ外國人ガ抵當權者デアル場合ニハ自ラ其不
動產ヲ買受ケルコトガ出来スカラ詰リ實際賣レタ代價トソレカラ第三取得者
ガ提供シタル金額ニ一割ヲ加ヘタルモノトノ差額ヲ抵當權者ヲシテ負擔セシ
ムルト云フコトニ爲テ居ル

是ガ撤除ノ一般ノ仕組デアラ、細カイ手續ハ法律ニ規定シテアリマスケレドモ、
其ノ法律文ヲ御覽ニサレ、其ノ條文ハ是ノ條及權ノ御話ヲ可シ、其經當權ヲ効力

國策を買賣せしむるに由來ありて、諸君實業の力助るべしとて、第三項の條に一種風俗を出來せしむるに、鬼を外國人に渡當附添せしむる、是合へば自是其不
 斷に京橋へハロイテ出來アサレセシムル神龍寺に出來テハ、兩番三十二學
 律又ハ渡當附添を外國人にて是イテハ今日ハ、共有ハ外國人ハ士族ハ、親戚
 又ハ城ハ、定てロイニ數で攝ハレハ、二村ハ、數番の邦セサレハ、セシメテ、天調ニ
 對稱ハ、セシイテセシハ、萬一千圓を、自來ハ、臣妾セシメテ、薩東セシメテ、ハセ
 セシメハ、自來ハ、臣妾セシメ、自來ハ、買賣セシメ、一階屋ハ、升階セシメ、明大ハ、萬圓セ
 シメハ、數番對號賣ハ、龍來セシメ、渡當附添ハ、舊ハ、一階以上高ハ、賣ハロイテ、出來セシメ
 諸君實業ハ、題實龍來セシメ、特セシメ、攝ハレハ、六セシメ、諸ハ、輔衆ハ、龍來セシメ、ハ、
 領ハ、臣妾セシメ、ハ、文部卿ハ、定て、主人ハ、秘要ハ、歸ハ、式セシメ、洋ハ、ハ、典ハ、

民法目次

○負擔附贈與及買賣ニ付テノ推問	法律博士 鈴木英太郎	二〇三
○能力ニ付テノ推問	法律博士 梅田謙次郎	二〇七
○隔地者間ニ於ケル意思表示ニ關スル推問	法律博士 梅田謙次郎	二〇九
○私法ニ關スル學說ノ評論、我民法ト稱スル民法トノ編纂上ノ意義	法律博士 鈴木英太郎	二一四
○民法ト民事訴訟法トノ關係ニ付テノ講演	法律博士 鈴木英太郎	二一五
○債權ニ付テノ講演	法律博士 梅田謙次郎	二一六
○民法第百七十九條ノ推問	法律博士 梅田謙次郎	二一七
○擔保ノ性質ニ關スル講演	法律博士 梅田謙次郎	二一八
○物權ノ混同ニ關スル推問	法律博士 梅田謙次郎	二一九
○占有權ニ付テノ推問	法律博士 梅田謙次郎	二二〇
○親族ノ範圍、自主及家業ニ關スル推問	法律博士 梅田謙次郎	二二一

○意思表示ニ付テノ推問	法律博士 梅 謙次郎	一五三
○錯誤ニ付テノ講演	法律博士 梅 謙次郎	一五〇
○再婚、再縁組、家族ノ離婚及ヒ戸主權ノ喪失等ニ關スル質疑應答並ニ推問	法律博士 梅 謙次郎	一五一
○先取特權ニ付テノ講演	法律博士 梅 謙次郎	一六二
○詐欺及ヒ強迫ニ關スル推問	法律博士 梅 謙次郎	一七九
○民法第九十條ニ就テノ推問	法律博士 田代 律雄	一九四
○民法第九十五條ニ就テノ推問	法律博士 田代 律雄	一九九
○胎兒ト法定代理人、無能力者ノ法律行為ノ效力及ヒ法律行為ト訴訟行為トノ區別ニ付テノ講演	法律博士 鈴木 實太郎	二〇五
○留置權ニ付テノ推問	法律博士 板倉 梧太郎	二二一
○買賣其他ノ契約ニ關スル推問	法律博士 田代 律雄	二三〇
○質權ニ付テノ講演	法律博士 梅 謙次郎	二三五
○代理ノ性質及ヒ代理權ノ授與ニ關スル推問並ニ講演	法律博士 梅 謙次郎	二七三

民法目次終

○隱居ノ無効ニ關スル推問	法律博士 梅 謙次郎	二九三
○婚姻ニ關スル推問	法律博士 梅 謙次郎	二九八
○質權ニ付テノ講演	法律博士 板倉 梧太郎	三〇五
○婚姻取消ノ效果、夫カ後見人ノ職務ヲ行フ場合、夫婦財產契約ノ成立時期等ニ關スル推問	法律博士 梅 謙次郎	三一七
○質權ニ付テノ講演	法律博士 板倉 梧太郎	三二二
○代理權ノ授與、代理ノ要素ニ付テノ推問	法律博士 梅 謙次郎	三三九
○抵當權ニ付テノ講演	法律博士 梅 謙次郎	三六九

異書目次

○是當對ニ付てノ質問		三六五
○升影謝ノ與與ノ影ノ與與ニ付てノ質問		三六六
○昇謝ニ付てノ質問		三六七
○昇謝ニ付てノ質問		三六八
○昇謝ニ付てノ質問		三六九
○昇謝ニ付てノ質問		三七〇
○昇謝ニ付てノ質問		三七一
○昇謝ニ付てノ質問		三七二
○昇謝ニ付てノ質問		三七三
○昇謝ニ付てノ質問		三七四
○昇謝ニ付てノ質問		三七五
○昇謝ニ付てノ質問		三七六
○昇謝ニ付てノ質問		三七七
○昇謝ニ付てノ質問		三七八
○昇謝ニ付てノ質問		三七九
○昇謝ニ付てノ質問		三八〇
○昇謝ニ付てノ質問		三八一
○昇謝ニ付てノ質問		三八二
○昇謝ニ付てノ質問		三八三
○昇謝ニ付てノ質問		三八四
○昇謝ニ付てノ質問		三八五
○昇謝ニ付てノ質問		三八六
○昇謝ニ付てノ質問		三八七
○昇謝ニ付てノ質問		三八八
○昇謝ニ付てノ質問		三八九
○昇謝ニ付てノ質問		三九〇
○昇謝ニ付てノ質問		三九一
○昇謝ニ付てノ質問		三九二
○昇謝ニ付てノ質問		三九三
○昇謝ニ付てノ質問		三九四
○昇謝ニ付てノ質問		三九五
○昇謝ニ付てノ質問		三九六
○昇謝ニ付てノ質問		三九七
○昇謝ニ付てノ質問		三九八
○昇謝ニ付てノ質問		三九九
○昇謝ニ付てノ質問		四〇〇

商法第五百四十四條ニ就テノ推問

法學博士 松波仁一郎

本日ハ豫テ通知シテ置イタ通り商法第五百四十四條ノ規定ニ就テ推問ヲ
 始メマス

講師 第一ニ質問スルノデスガ、本問ニ關シテハ民法ト商法トノ關係ハ各、獨立
 ニ解セテバナラスカ、或ハ相待テ解セテバナラスデスカ、ドナタカ説明シテ御
 覽ナサイ

生徒 是ハ民法ノ例外的性質ヲ有シテ居ルダラウト思ヒマス、民法ノ原則タル
 雇主ガ使用人ニ對スル責任ノ例外ノ責任ヲ有シテ居ルダラウト思ヒマス、
 講師 民法デハ斯ウ斯ウデ、商法デハ斯ウ斯ウダト條文ヲ持タナイ人ニ分ルヤ
 ウニ言テ御覽ナサイ

生徒 民法ノ一般ノ原則トシテ雇主ガ使用人ノ選任及ビ其業務ノ監督ニ付テ、相當ノ注意ヲ怠ラナイ場合ニハ其雇人ノ行為ニ付テ責任ヲ免ルル其他相當ノ注意ヲ爲スモ其損害ガ起ルベカリシトキハ使用人ハ責任ヲ負ハナイケレドモ船舶所有者ハ船長ガ其代理權ノ範圍内若クハ船員ガ其職務内ニ於テ爲シタル事ニ付テノ責任ハ全ク之ト異ニシテ縱令選任ヲ善クシ業務ノ監督ノ及バナイ場合ニ於テモ其行為ニ付テ責任ヲ負ハナラヌト云フハ第五百四十四條ノ精神ニシテ全ク例外ノ性質ダト思ヒマス

講師 アナタノ例外ト云フノハ民法ニハ選任監督ヲ怠ラナカッタラバ本人ハ責任ヲ免レルトノ規定ガアルニ商法デハ船主ガ選任監督ヲ怠ラナクテモ責任ヲ免レナイト云フカラデスカ

生徒 左様デス

講師 ドナタカ其レニ付テ反對説ガアリマスカ

生徒(他ノ) 前キニ述べラレタダケデハ本人ガ雇人ノ不法行為ニ關シテ責任ヲ負フベキ程度ト云フモノハ果シテ民法ノ七百十五條ノ例外規定デアルカド

ウカハ分ラナイコトデアルト思ヒマス

講師 ナウスルトドウ云フ結果ニ爲リマス

生徒 是ハ私ノ考デハ此第五百四十四條ノ規定ハ民法七百十五條ノ不法行為ノ場合ニ付テハ主人ハ絕對無限ニ責任ヲ負ハナラヌ所ガ此第五百四十四條ノ場合ニ於テハ唯海損ノミニ付テノ責任ヲ免レルト云フ規定デアッタ其責任ヲ免ル所ノ不法行為ガドウ云フヤウナ場合ニ於テ不法行為ニ爲ルカ言葉ヲ換ヘテ言ヘバ七百十五條ノ不法行為其モノニ付テモ例外規定デアルカドウカハ五百四十四條デハ分ラヌカト思ヒマス

講師 分ラヌカラシテ極ク問題ヲ皆ニ分ルヤウニシテ船員カ何カ間違ラヤッタ他人ニ損害ヲ掛ケタトキニ船主ガ責任ヲ負ナカ負ハナイカ選任監督ヲ誤ッタナラバ民法デモ責任ヲ負テ選任監督ヲ怠ラナカッタトキデモ商法ニテハ責任ヲ負ハヌカト云フコトヲ伺ヒタイ

生徒 其レハ第五百四十四條デハ分ラナイト思ヒマス

講師 分ラナイデハ困ル兩方ノ規定ヲ解剖シテ負フトカ負ハヌトカ云ハナラ

ナラス

生徒 此五百四十四條ニテ此點ニ付キ別ニ明言シテ居ラナカッタバ船舶所有者ガ運送ノ目的ヲ以テ船舶ヲ使用シタ場合ニ於テハ運送上ノ規定ガアリマシテ運送人ハ使用人及ビ外ノ運送人等ガ不注意ニ因テ貨物ニ損害ヲ加ヘタ場合ニ於テモ尙ホ責任ヲ負フト云フ規定ヲ依テル若シ船舶所有者ガ同時ニ運送人デアラタ場合ニ於テハ不法行為ノ責任ニ付テハ七百十五條ノ規定デナク他ノ規定ハ依ルダラウト思フ

講師 サウスルト船主ガ選任監督ヲ怠ラナカッタキニハ民法ノ七百十五條ノ但書ヲ適用セラレテ船主ガ責任ヲ負ハスト云フコトニ爲ルノデスカ
生徒 左様デス

講師 其理由ハ民法ニ選任監督ヲ怠ラストキハ責任ヲ負ハストアル其事ガ之ニ當ルカラ船主ガ責任ヲ負ハナイト云フノデスカ

生徒 ハイ

講師 ソレデ雙方ノ論點ガ極ク外ニ諸君ノ御説ガアリマスカ雙方ノ理由ヲ強

メルカ第三説トシテ新ニ出ス

甲生徒 私ハ本條ハ民法ノ例外規定デアルト云フ考デゴザイマス
乙生徒 チョウト先生此例外規定ト云フコトハ……
講師 例外規定ト云フノハ一寸曖昧デアルカラ能ク分ルヤウニ言フベシ船主ガ船員ノ選任監督ヲ怠ラナカッタバ民法ヲ適用シテハ船主ハ無責任ナリト云フ説ト注意監督スルモ責任ヲ負フト云フ説ニシテ後者ハ諸君ノ所謂例外規定ト謂フコトデアル

生徒 私ハ例外ト云フノハ曖昧デゴザイマスケレドモ先生ノ御話通り詰リ船主ハ選任ニ注意致シテモ責任ヲ負ハナケレバナラスト云フコトデゴザイマスソレデ若シ之ガ責任ヲ負ハストシマシタトキハ其レハ此法文ノ何レノ點カラ論據ヲ置タカト云フコトヲ詮索シナケレバナラスト思フ然ルニ法文ニハ唯船舶所有者ハ船長ガ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行為云云ト書イテゴザイマシテ其船長ト云フモノハ選任ヲ注意シタ所ノ船長デアルカ若クハ選任ノ注意ガ足ラナカッタ船長デアルカ尙ホ又監督ト云フモノハ此場合ニ於

十分ニ行届イタカ、ドウカト云フコトハ何レニモ明文ヲ置カズシテ、反覆ニ執レニモ適用ガ出来ルヤウナ文字デゴザイマスカラ其レ等ノ點カラ見マシタモ選任ニ注意スルトセザルト問ハス、其責任ヲ負擔スベキモノデアルト云フコトハ此規定上カラモ言ハレマス且又一般ニ海商法其モノノ性質カラ見マシタモ若シ船主カ選任ニ注意シタナラバ責任ヲ負ハストシマスルトキハ貨物ヲ類ミ其他ノ運送ヲ依頼スル者ニ危懼心ヲ生ジマスソレデアルカラ反對論者ノ解釋ハ海商法ヲ設ケテ海運ヲ盛ニスルト云フ法律ノ精神ニモ背イテ居ル、海商法ハサウ云フ立法ノ趣旨カラシテ船主ガ船長ノ選任ニ注意スルトセザルト、監督ガ行届イタカ行届カヌカラ問ハズ責任ヲ負ハシメルコトニシテ安心ヲサセテ居リマス、サウ云フ所カラ矢張商法ハ民法ノ例外規定デアラウト考ヘマス

講師 詰リアナタノハ商法ニハ漠然ト船主ハ斯ウ云フ工合ニ責任ヲ負フト書イテアルカラ總テノ場合ニ責任ヲ負フノデアアル、又一般ノ海商法理カラ言フモ負ハサチバナラスト云フノデスヤ

生徒 サウデス

講師 (他ノ生徒ニ向ヒ先キノアナタノ論ニハ立法上ノ理由ハナカダデスガ今ノ趣意ト同ジデシタカ)

生徒 私ハ沿革上カラノ理由ガアルダウト思ヒマス

講師 ドウデス諸君モト外ニ理由ガアリマセンカ、本條ニハ餘程澤山ノ問題ガ含ンデ居リマスカラ……

生徒 此點ニ於テハ外ニ議論ガナイト思ヒマス

講師 先ヅ論點ハ其位ナモノデス、普通ニ考ヘルト船主ト船員ノ關係ハ雇人ト本人ノ關係デアアル、ドウシタモ斯ウ云ハナケレバナラス、ソコデ本人ガ雇人ノ行為ニ付テ責任ヲ負フト云フノハ何處カラ出テ來ルカ、斯ウ云フコトヲ尋テ見ルトドウシタモ法律ノ規定ニ依ラナケレバナラス、法律ノ規定ガナケレバナノシタ事ニ付テ自分ガ責任ヲ負フ筈ガナイカラ、斯ク一般ニ論ジテ行クト先ヅ民法ヲ見テバナラス、而シテ民法ノ不法行為ノ原則ノ七百十五條ヲ見ルニ雇人ノシタ事ニ付テハ本人ガ責任ヲ負フトアル、之ヲ海商法ニ當帳ナル

ト船主ト船長トノ關係ハ本人ト雇人トノ關係ガカラ同條ヲ當嵌ルベキデア
 ルト斯クヲヨク思ハレル
 併シ若シ民法ノ七百十五條ガアルカラ船主ガ船員ノ行為ニ付テ責任ヲ負フ
 ノダト云フナラバ同時ニ同條ノ但書デモ適用セキバナラス解釋ニ爲ル隨テ
 若シ船主ガ船員ノ選任監督ヲ怠ラナカッタラバ彼等ノ行為ニ付テ責任ヲ免
 レルト謂ハキバナラナク爲ル
 一部ノ論者ガ今ノ論旨ヲ通シテ船主ハ責任ヲ免ルト曰ヒ尙ホ進ンデ曰ク此
 五百四十四條ハ船主ガ責任ヲ負フトカ負ハスト云フノ問題ヲ決スルノデナ
 クシテ其事ハ民法ニ依テ決セラレ本條ハ負フ場合ニ責任ヲ制限スルコトヲ
 規定シタノミデアルト斯リ云フヤウニ議論ヲ貫通シテ來ルサキモサウ云フ
 趣意ノ御説モアツタ様ニ思フ
 併シ此點ニ關シテハ海商法ノ規定ヲ獨立ニ見ナケレバナラス民法ノ七百十
 五條ト關聯セテハ惡イ民法ヲ見ルガ爲メニ却テ海商法理ヲ誤ルノデス讀
 者ヲシテ斯ル誤解ヲ來サスヤウナ條文ヲ書イタノハ起草ノ拙ナルヨリ起ル

高

ハテ起草者ガ責任ヲ負ハナカレバナラスガ併ナガ別必ズシモサウ云フ風ニ
 解キテバナラナキト云フ譯モナカレバ極ク善意ニ海商法理ニ副ハスヤウニ解
 スルハ宜シ
 本條ハ海商法ヲハ船主ガ船員ノ行為ニ付テ左ノ場合ニ責任ヲ負フト云フ
 トヲ據メタムデ即チ船主ハ左ノ場合ニ於テ他人ノ行為ニ付テ責任ヲ負
 フ第一船長ガ法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行為第二船員ガ其職務ヲ行フ
 當テ他人ニ加ヘタル損害トシテ而シテ進ンテ船主ハ右ノ場合ニ責任ヲ負
 船主運賃等ヲ交付セタ其責任ヲ免ルル得トスル趣意デアラウ然ク二三ニ分
 ツテ文章ヲ一スニ込メタムデアラウ書方ノ拙ナル爲メ誤解ヲ來ス
 ノデス所云云書方ノ下手ハ爰ニハ限ラレテ手形法ナドニモモテ人
 手形ニ付テアルガ無能力者ガ手形ヨリ生シタル債務ヲ取消シタル點ト
 雖モ他人ノ手形上ノ權利義務ニ影響ヲ及ボス(第四三八條)云云文章ガアル
 是ニ付テモ無能力者起リ即チ無能力者ガ取消シタル場合ニ他ニ影響ヲ及ボ
 スナレトス所ナカレバ被詐欺者ガ取消シタル場合ハドモナルカト云フ點デアラ民

法ヲ開テ取消ノ原因ニ無能力者ト詐欺の場合タルニ、受テハ無能力者ト
場合ナシカ書列ナキ此間ガ起ルハ、是書方欺惑ナシタル、
詐欺モラレテ手形得爲シタル者ト取消ス。ト然則、本ノハ明カナル手
形ニ署名シタル者ハ文書ニ隨テ責任ヲ負フ。ト偽造又ハ變造ノ手形ニ署名シ
タル者モ責任ヲ負フ。トシテアル、全體手形ノ原則トシテハ無能力者デアラウ
ガ詐欺ニ掛リシ者デアラウガ、誰デアラウガ、署名シタル以上ハ責任ヲ負フノ
事アル。但無能力者ガ手形ニ署名シタルモ之ヲ取消ス。ト得
ト云フ例外ヲ設ケタルデアル、而シテ無能力者ガ之ヲ取消シタルトモ他ノ
權利義務ニ影響ヲ及ボサズト云フ。トモトモ、設ケタルデアル此二箇ノ事
、一ニ書イタル人ニ疑ヲ起シタルデアル、故ニ皆手形法ヲ解シテ各債
務者ハ手形行爲ヲ取消ス。ト得ズ、無能力者ノ之ヲ取消ス。ト得彼
ハ之ヲ取消シタルトモ、他ニ影響ヲ及ボサズト云ウ。居ル手形法ニテ
此解釋ガ立テ得ルヲハ海商法ヲ立テ得ルヲハ、居ル手形法ニテ
加之先ハ御話ナヤウニ海商法理ニシテハ、斯ク解セバカラズ、若シテノ

民法ノ規定ガ適用シテタルハ、船主トシテ、當ニ無責任ニ爲ラザル、何トナ
レバ船主ガ船長ヲ選任スルトモ、常ニ大ニ注意スル。又船長ノ選任ナヘ良ク
スレバ其船長ガ外ノ船員ヲ選任スルカシテ、船主ノ方カラ云ヘバ、船長ノ選
任ナヘ良クスレバ、選任スルカシテ、船主ノ方カラ云ヘバ、船長ノ選
居ルコトノ證明ハ、直チニ立ツナゼカト云ヘバ、船長ニハ一定ノ資格ヲ要シ、國
家ガ此人ハ技術ガ十分デアルト云フ證明ヲスル、又彼ガ一度モ法律其他ノ制
裁ヲ加ヘラレタ者デナイト云フコトモ、探リ易イ、國家ガ大丈夫ト云フタ人ヲ
選ブノデアルカラ、其選任ニ注意シタルハ、言ヘル、又本人カラ云ウタモ、何萬圓
ト云フ財産ヲ其人ニ託スルノデアルカラ、無關係ナ人ヲ選バナイト云フコトモ、
直チニ證明ガ立ツ。來ル、次ニ監督ヲ誤ラカカト云フコトモ、又監督スルモ
生ジ得ベカリシ損害ト云フコトモ、直チニ證明ガ立ツ。船主ノ手許
ヲ離レテ活動シテ居ルモノデアル、自由自在ニ動イテ居ルモノデアル、
船主ノ效能ガアルノダ、斯ク自分ノ手許ヲ離レテ動イテ居ルモノ、
家ナイト云フノハ、當リ前ノ話ダ、又十分ニ監督シテ居ルトスルモ、損害ガ生ジ

得ルカヲレト云フコトモアヲウチナコトヲナルヲ證明シ得ル民法第七百十五條第二項但書ニ書イタルコトヲ證明ハ殆ト常ニ爲ル得ラルル證明ヲ爲シタ結果トシテ船主ガ無責任ト爲ル若シテ條文ヲ船主ヲ常ニ無責任トスルノナラバ最早責任ノ制限ナシト決テ數少規定スルニ及ハス船主ハ常ニ之ヲ但書ニ依リテ責任ヲ免ルルコトニ爲レバナリ其代チニナウ爲メナリ船主ト云フ者ハ安心シテ船主ニ荷物ヲ託スルコトハ出來ナリ船主ガオツデモ無責任ナリト爲ル結果ハ荷主ナリ旅客ナリテ危ハ成ルコトナル後等ノ心ニ船主ニ託シタナリウデモ損サスルモノダト云フ感情ガ起リ諸ノ海事ハ發達シナイコトニ爲ルデアリ國家ガ船主ニ其ノ輕シ恩典ヲ與フル必要ハナリ船主ガ選任監督ヲ課ラザリシコトヲ證明スルニ全ク其責任ヲ免レ而シテ選任監督ヲ課ラザリシコトヲ證明スルニ云フ其レ程ウマイ位地ニ居ルト云フノハ想像シ得ラレヌ故ニ海商法理ニ云フタモ本條ハ民法ト獨立ニ見カケザバラス又船主ハ船主ニ依リテ又實際トシテ觀テモ何レノ國デ船主ハ責任ヲ負ハシテ厚ル莫吉利ナリ船

長ガ航海ヲ不適當ニヤツテ自船ノ貨物旅客又ハ他船吸ビ其船上ニ在ル貨物人命ニ損害ヲ掛ケタトキハ船主ハ責任ヲ負フ併シ其責任ハ制限セラルトシナルソレカラ又外ノ國デハ日本ノヤウニ廣ク是ノ場合ニハ船主ハ責任ハ制限セラルト書イタル併シ何レノ國デモ注意監督ダクシタナラバ總テノ責任ヲ免レルト云フ居ルモノハナイ現ニ昨年十月ノ二十五六七日ニ漢堡ニテ萬國海法會議ヲ開キシトキダツトシテ云フ人ガ論ジテ余輩ハヤカマシク責任ノ制限論ヲ議スルニ及ハスヤカマシク言ハナクトモ民法ノ規定ニ依リ船主ハ選任監督ヲヘスルバ全ク責任ヲ免ルレバナリ全ク無責任ト爲ラ得ル途アルニ責任ノ大小ヲ論ズルニ及バスト當ヒ出テケレド一英ニ付セラレタ彼ハ唯獨逸流ノ空理ニ基イテ海商ノ法理ヲ知ラスカラナウ云フコトヲ言ウタノデアアル其人ノ言フヤウニナレバ總テノ船主ノ利益ニ爲ル其船主ガ氏ノ説ヲ聽イタソシナ馬鹿ナコトハアリハシナイ船員ニ過失アレバ自分等ガ責任ヲ負フノハ當リ前ガ唯無限ノ責任ヲ負ハナレタハ航海業ハ營業ナイカラ制限ラシテ責ヒタナクモ云フタモ船主ガナウ云フタ居ルカヲ觀

ニ此法律論ガナイトシテモ實際ニ船主ガ責任ヲ負フテラウ故ニ本條ヲ援
法ト獨立ニ解シテ船主ニ責任ヲ負ハシムル實際ニモ協フ而シテ之ヲ負ハス
場合ニ其責任ヲ制限シタル分リマシタカヘシヤト船員ニ課スル責任
生徒 今ノ御説ハ能ク分リマシタガ其責任ハ船船ノ場合主ニ適用ナラハ
講師 無論適用ナラズトモ、然レモ、船員ノ責任ハ船船ノ場合主ニ適用ナラハ
生徒 民法ニ所謂使用者ガ被用者ヲ選任監督ヲ誤ル場合ノ事ハ船船所有者
ト船長又ハ船員トノ間ニモ散リマスカ本條ヲ但書ノ船主ニ過失アリタル
キハ此限ニ在ラストノ適用ハドウ云フコトニ爲リマスカイヨト起テ、則チ
講師 過失ガアレバアル様ニスル今言ウタノハ船主ガ船長ヲ選任シタル過失
ガナインハ普通デアアラ又證明ガ容易イト云フタラサス船主自ラニ過失ガア
レバ總テノ責任ヲ負フコト當然ナル故總テノ問題ガナラバ仕舞フヤ
生徒 事實ニ於テ監督又ハ選任ヲ怠ラシト云フコトガ、則チ場合ニ船船所有者
ニ過失ガアッタト云フコトガ言ヘルヲデカサシ其責任ハ船船所有者
講師 事實論トシテ選任ヲ誤ラコトハ過失ト云フコトニ爲ルハ選任ヲ誤ラコト

ノ事ハ過失ト云フニ至ラスカハ裁判官ノ認定ニ委シ、裁判官ガ過失ト觀レバ
船主ガ無限ノ責任ヲ負フシデアルハ、又、過失ト觀レバ、船主ノ責任ヲ無限
生徒 但書ノ解釋上所有者ガ船員ノ監督選任ヲ誤ラシト云フコトガ過失デア
トスルハ五百四十四條ハ疑ノナク條文ニ爲ラ仕舞フカト思ヒマス
講師 ソコダス船主ニ過失ガアッタトキハ無論無限ノ責任ヲ負フカラ深ク論ズ
ルニ及バズ論ズル譯ハ彼ハ過失ガナクタルモ彼ハ矢張程度ノ責任ヲ負フカ
ラデス
生徒 船主ガ船長ヲ選任スル場合ニ船長カ所有者ハ一定ノ資格ガナレバイ
カ、既ニ國家ガ資格ヲ付與シタラバ其中カラドウ云フ者ヲ選ンデモ過失ト
云フコトハナカサカト思ヒマス
講師 多クの場合ニ過失デハナイ併シ過失ノ場合ヲ想像スレバ出來ル例ヘ
バ免狀ハ持テ居ルガ當ニ辭拂ヲヲ疑難シテ仕事スルカイ者ガ免狀ハ、國家ガ免
狀ヲ取上ル様ニ顯クガカイ免狀ドモ、斯ル者ニ屬ウタ直チニ重大ナル航路
ノ船長トスルモ其過失ガアルト云フコトニ爲リ得ル

講師 是ハ六ヶ敷キ問題デアル、第一ニ日本ノ商法デ船員ト云フモノガ判然ト分ラナイ、海商法ヲ見テ諸君ガ船員ト云フモノヲドウ云フ者ト思フカ知リマセヌガ、船員ハ定義ニ海商法ニナイ、結局船船ノ乗組員ト云フコトデアラウ、併シ乗組員ト云フモノ十分ニ明カデナイ、今ノ所デハ稍ヤ不明デアルガ不取敢テノ説明方法トシテ船船乗組員トハ雇傭契約ニ基キ一定ノ方式ヲ經テ船船デ職務ヲ執ル人ナリト廣ク言フテ置カウ、前ニ何處ニモ定義ヲ下シテ居ラナイカラ明カニ彼是トハ云ヘナイガ總テ規定カラ綜合シテ見ルト海員雇入ノ規則ニ依テ職務ヲ執ル者其言スレバ海員雇入ノ手續ヲ經テ船船上ニ職務ヲ執ル人間デアル先ヅ斯ク云フ者ト見テ實ヘバ宜イ、偶逸デ去年出來テ今年ノ四月一日ヨリ行ハレタ船員法ノ第二條デアツカニ船員トハ船船デ職務ヲ執ル者ナリト云ヒテ之ニ水先人ヲ道入ラ來テハ困ルカラ、但水先人ハ此限ニ在ラストシテ居ルハ又同條ニキ野山ハ載テイ云ヒテモイハレマカス、餘計ナ話デスガ段段ト女モ海員ニ爲リ來リ海員ノ範圍ガ段段廣ク爲ラ來ル、初ハ海員ノコトヲ水夫ト云フ地位デアル、水夫ト云フハ主トシテ帆ヲ上グタ

ナリ、舵ヲ動シタリ、櫓ヲ推シタリスルヤウナ人間デアツタ、所ガ此頃蒸氣船ガ出來テカラドウモ水夫ト云ウテハ狹過ヤルトシテ火夫ナンドト云フ名ノ者モ出來タ、彼等ガ火ヲ焚クカラ船ノ進行力ガ生ジテ來ルノダカラ、船ヲ進行セシムト云フ點カラハ水夫モ火夫モ同一デアル、故ニ或名稱ノ下ニ彼等ヲ包括セシメ得ラルル、後ニ船ガ大キク爲ラ來テ醫師モ出來テ多ク事務員事務長ト云フヤウナ者モ出來、旅客運送ガ盛ニ爲ラ來ルト特別ノ賄員ガ出來、賄方事務ノ者ガ澤山アル、私ガ先年太西洋ヲ渡ル時ニハ旅客ノ旅情ヲ慰メル爲メニ樂隊ガ乗込ンデ居タ、チウナツテ來ルト船ヲ進行セシムル者ト云フダケデハ船船上ニ職務ヲ探ル者ヲ悉ク含メナイカラモット廣キ文字ヲ用ヒ船船ニ在リ航海中ニ職務ヲ執ル者トシタスレバ矢張樂隊モ客ヲ喜バシテ船主ノ利益ヲ圖ツテ居リ、醫師モ病人ヲ診察シテ船主ノ利益ヲ圖ツテ居リ、何レモ船船ニ於テ職務ヲ取ラテ居ル、ダカラ此中ニ道入ル、初ハ男バカリデアツタガ、此頃ハボツボツ女ヲ使フコトニ爲リ私ガ英吉利ニ行キ掛ケニ乗ラテ船ニ一入ノ女ガ居ラテ船ニ附ウタ人達ヲ世話シテ居ラタ、又偶逸ノキール海カラ船ニ乗ラテ丁抹、瑞典邊

若シ又水先人ノ監督ヲヤリ損ウタノハ船長ノ過失デカラ其場合ニハイワデ
船主ノ責任ヲ制限スルト云フ解釋ヲ爲シ得トセバ、船長ト云フ者ハ海員ヲ
監督シナケレバナラズ人間デアルカラ、船員ガ職務ヲ行フニ當テ他人ニ損
害ヲ加ヘタルトキハ云ト云ハナクモ、唯船長ガ職務ヲ行フニ當テ他人ニ損
害ヲ加ヘタルトキハト云ヘバ足ルデアラウ、然ルヲ愛ニ船長其他ノ船員ガ職
務ヲ行フニ當テ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ船員ヲ加ヘタルハ若
シ之ヲ如ヘザレバ船員ノ行為ニ付テハ如何スベキカ知レズ已ムヲ得ズ一般
ノ原則ニ依ラテバナラヌコトト爲ルベシト信ジタカラデアル、船員ヲ加ヘナ
ガラ水先人ヲ入レザリシ故ドウシテモ水先人ガ這入テ來ナイ、故ニ法律ガ惡
イト云フヨリ仕方ガナイ也中
荷揚人足ナドハ別デアル、是ハ陸上ノ使用人デアルカラ一般ノ陸上ノ使用人
ト均シタス、船主ノ責任ヲ制限スルニ付テモ何處カデ區切ヲ付ケテバナラヌ
カラ海上使用人ニ限ルノデアラウ、荷揚人足、水先人ト同一ノ論デハナイ也
生徒 船主ガ運送スル目的デ人ヲ使用シマス場合ニハ自ラ責任ガアリ

ラ五百四十四條ハ通用ガ出来ナイデス、
歸師 運送ノトキハ運送ノ規定デヤ行ク、爰ハ運送契約ノ規定デナラ
雇人ガ第三者ニ損害ヲ加ヘタ場合デア、尙ヨリ運送ノ契約ト關聯シタ研究
シナケレバナラヌ場合モアリ、又獨立ニヤリ得ル場合モ澤山アリマス、今マデ
述ベタ外ニ新シイ論點ガアリマス、
生徒 五百四十四條ハ船船イ賃借人ニ適用ガアリマス、
歸師 歸師ソレデハ諸君令ヨリ船船賃借人ノ責任ヲ論ジテ御覽ナダイ、船主ガ船長
ヲシテ航海セシメタ斯ウ云フ場合ニ運送ナラバ、責任ヲ制限セラル、即チ他
人ニ百萬圓ノ損害ヲ掛ケタモ其船船ヲ委付シテ責任ヲ免ルルアルガ、私ガ
他人カラ船ヲ借リテ船長ヲ乗込マシテ航海ヲサシタ時ニ船長ノヤリ損ヒデ
人ニ百萬圓ノ損害ヲ掛ケタナラバ私ハ其船船ヲ委付シテ責任ヲ免ルルコト
ヲ得ルカト云フノデス、其レニハ五百五十六條、五百五十七條ヲ參照シナケレ
バナラヌガ、其レニハ關ベテナイ方デアリマス、又是ハ六次敷イ問題デ
スカラ此次イ時ニモヤリマシテ五百四十四條ダケデ解ケル間ヲ掛ケタ見

思ヒマス、一體他人ニ損害ヲ掛ケルト全部賠償シナケレバナラヌト云フコトヲ原則トシテ居ル、唯此場合ニ於テハ例外トシテ委付權ヲ許シテ居ルノデア
ル、委付ノ權利ハ自分ノ意思ニ因テ拋棄スルコトガ出來ル、拋棄スレバ全部ノ
損害ニ付テ負擔シナケレバナラス、船舶ヲ賣ルト云フコトガ其權利ヲ拋棄ス
ルト云フ考デヤ、タモノデアルナラバ其後ハ全部ニ付テ責任ヲ負ハナケレバ
ナラス、即チ賣買ト云フコトハ普通ノ場合ニ於テ權利ヲ拋棄スルト云フコト
ニ解釋スルコトガ出來ルト思ヒマス、其場合ニ買戻シテ委付スルコトガ出來
ルナラバ其船舶ヲ委付シテ責任ヲ免ルルコトガ出來ルト思ヒマス、
戊生徒 私ハ五百四十二條ノ條文ガ嵌リハシナイカト思ヒマス、
講師 私ノ意見ハ別トシテ善意惡意ニ依テ五百四十二條五百四十四條ノ適否
其他法律上ノ效果ハ異ナリマスカ、
甲生徒 ソコノ所ガ少シ決シ難キヲ居リマスガ、善意デアラナラバ五百四十四
條ガ直チニ嵌ルト思ヒマス、
乙生徒 權利ヲ拋棄シタモノデアルト云フ說デゴザイマシタガ、全體五百四十

四條ハ公益ノ規定デアラウト思ヒマス、本来ナラバ船主ハ無限ノ責任ヲ負ハ
ナケレバナラスノヲ、海運ヲ盛ニスル必要上其責任ヲ或程度ニ限リタモノデア
ル、公益ノ規定デアルカラ唯一箇人ガ權利ヲ拋棄シタガ爲メニ其規定ヲ適用
セスト云フノハ所謂公益規定ノ性質ニ反シタモノデアラウト思ヒマス、故ニ
縱令賣却ヲ致シマシタモ公益ノ規定ハ何處マデモ貫イテ今ソヤウニ
丙生徒 私ハ初ノ說ニ賛成デアリマスガ其理由ガ違ヒマス、委付ノ性質カラ考
ヘテ見ルト委付ノ性質トシテ船舶ノ代金ヲ以テ船舶ニ代ヘルト云フコトハ
委付ノ性質ニ反スルト思ヒマス、船舶其物ノ所有權ヲ渡シテ其責任ヲ免ルル
ト云フノガ委付ノ性質デアアル、若シモ債權者トノ契約デ金錢ヲ拂フタト云フヤ
ウナ場合ヲ生ズレバ外ノ契約デアラッテ委付デナイト云ヘルダラウト思ヒマス、
丁生徒 五百四十四條ノ債權ニ付テハ先取特權ガ認めラレテ居リマス、サウス
レバ五百四十二條ハ適用ガ出來テ、ソレデ責任ヲ免レル
講師 ソレハ別問題ニ爲テ來ル、今問題トスル所ハ船主ガ船ヲ賣ツタトキハ責
任ヲ免レルカ、有限ノ責任ヲ負フカ、無限ノ責任ヲ負フカト云フコトデアアル、此

問題ニ就テ無限ノ責任ヲ負ハナケレバナラヌト云フ御方ガ三人アツダガ三人ナガラノ説明ヲ合シテ見ルカ宜イ元來船主ハ船員ノ行爲ニ無限ノ責任ヲ負フベキデアルガソレデハ或事情ノ下ニ氣ノ毒ノコトガアルカラ船泊運賃等ヲ拋棄シテ責任ヲ免レナシタノダ詰リ法律ノ恩典デアル然ルニ之ヲ賣ルハ自ラ此恩典ヲ實行シ得ナイヤウナ位置ニ置イタルデアルカラ原則ノ適用ヲ受ケテバナラス委付スレバ其ダケデ責任ヲ免レルノニ委付シナカッタノデアルカラ此適用ヲ受ケ得ラレズ隨テ無限ノ責任ヲ負ハナケレバナラス賣タ價ダケヲ以テ有限ノ責任ヲ負ハスノデナイ賣タ價ハ相當ノ價デアルカ否カニ付キ争ガ多ク起ルシ又假ニ之ハ常ニ定マリ得トスルモ賣ルト云フコトヲ構ハスト云フト外ノ弊害ガ生ジテ來ル虞ガアル旁ウ云フ場合ニハ無限ノ責任ヲ負ハスコトトシタラ宜カラウ船主ハ何ヲ拋棄セラ責任ヲ免レルカト云フコトニ付テハ諸國ノ立法ガ違ウテ居テ獨逸ノ海產主義トカ佛蘭西ノ委付主義トカ英國ノ噸數主義トカアラ正確ニ定メテ居ルノデアアルカラ爰デ條文ヲ解スルニ當リテモ成ルベク有ノ儘ニ解サテバナラス故ニ此條文ノ下ニ

ヲ船泊ヲ拋棄セズ其價ヲ拋棄シテ責任ヲ免レルト云フノハ許スベカラザルコトデアル此解釋ノ結果トシテ善意ノ賣主ニハ稍ヤ酷ナル場合ヲ生ジマス此大ニハ船主ガ損害ノ發生後船泊ヲ修繕シタルトキハ如何次ニ船主ガ船泊ヲ保險ニ附シタル場合ニ於テハ保險金額ヲモ委付スベキカ船員ノ大過失ニ因テ自己ノ船泊ノ積荷ニ損害ヲ加ヘタル場合ニモ本條ヲ適用スベキカ第五九二條參照船泊ノ賃借人モ本條ノ委付ヲ爲スコトヲ得ルヤ第五五六條第五五七條參照等ノ問題ニ就テ推問シマス茲ニ條文ハ如何トモ云フ事ハ諸師前同ニ船泊ヲ修繕シタルトキハ如何ト云フ問題ヲ殘シテ置キマス私ガ問題ノ歸著スル所ヲ言フヨリモトナタカ答ヘテ御覽ナサオハムトイフ生徒修繕ヲ加ヘタ増額ニ付テモ尙ホ債權者ノ權利ヲ行フコトガ出來ルダラント思ヒマス

講師 増價額ニ付テモ出來ルト云フヲハ十萬圓ヲ船泊ガ衝突シテ價格ガ七萬圓ニ下ッタノヲ修繕シテ八萬圓ニ爲ッタトキニ八萬圓ノ船泊ヲ其儘取レルト云フノデスカ

生徒 サウデス、詰リ委付ト云フノハ船舶ノ所有權ヲ移轉シテ仕舞フノデゴザ
イマスカラ、其所有權ニ附帶シテ居ルモノナラバ皆移轉スルコト爲ル、増價
シタル部分ニ付テモ一切所有權ヲ移轉スルノデアル、増價シタル部分ダケ
所有權ヲ移轉セスト云フコトハナイダラウト思ヒマス

講師 ドウデス、今ノ答ハ修繕ヲシタナラバ修繕ヲシタナリデ委付シテ仕舞フ、
債權者ガ修繕ヲシタナリノ船舶ヲ其儘ニテ得テ修繕ノ費用ハ拂ハレナイト云
フノデス問題ヲ換言スレバ船舶ヲ委付スルト云フノハ事變ノ起リタ時ノ船舶
ヲ委付スルコトカ、委付スル當時ノ船舶ヲ委付スルコトカデアラ、今ノ答ハ事
柄ノ起リタ時ノ船舶ヲ委付スルノデナクシテ、委付スル當時ノ船舶ヲ委付スル
ト云フコトデス、ソレデ宜イト思ヒマス

生徒 ソレデ宜イト思ヒマス、損害ガ生ジタナラバ其儘ノ船舶ヲ委付スルノデ
アルガ、修繕ヲ加ヘテ價格ヲ加ヘルコトニナルト其善クナラフヲ委付スル其
人ノ意見カラ解釋シテ、價ヲ付ケテ委付スルコトトシタ方ガ正當ダラウト思
ヒマス

講師 他ニ反對説カ、理由ノ違フ人ガアリマス、其理由ハ、
生徒 船舶所有者ハ元來五百四十四條ノ條文ガナケレバ全部責任ヲ負擔スル
地位ニ在ルノデアリマス、既ニ全部ノ責任デモ負擔シナケレバナラス地位ニ
居ル者ガ此五百四十四條ノ規定ノ爲メニ一部ニテ責ヲ免ルルコトヲ許サレ
タノダカラ、船ニ修繕ヲ加ヘタモノヲ其儘委付セシムベキデアル、債務者ヲシ
テ其増價船ニ對シテ權利ヲ行ハシメタモ債權者ニ不當利得ヲナスト云フコ
トニハ爲ラヌダラウト思ヒマス、其對價ハ、
講師 アナタノ言ハルル事ハ能ク分リマシタ、他ニ御考ノ違フ方ハゴザイマセ
シカ
生徒 他ノ私モソレデ宜カラウト思ヒマス、併シ此説ニ依ルト一ツノ批難ガア
ラウト思ヒマス、其批難ハドウシテ辯護シテ宜イカト云フコトハ今分リマセ
ス、其レハ今ノ如ク説キマストキニハ其損害ガ發シタル時ノ船舶ヲ委付スル
ニ非ズシテ、其委付セント欲スル時ノ船舶ヲ違ルコトニ爲リマスカラ、船舶所
有者ノ行爲ニ因テ船舶ノ價額ガ減シマシタ其トキモ失張其儘ニ委付スレバ

宜キコトニ爲ル損害が生ジタ時ハ船舶ヲ委付スルニ非ズシテイッダモ一定ノ期間内ナラバ委付スル所トガ出来ル限リシテナラバ過失モテ損害ヲ生ジタトキデモ其レヲ委付スルバ宜イト云フ論決ガ生ジタ事アリマス此一ツノ批難ガゴザイマシタ、ドウ辯護シタ宜イ事アリマセヌ、此レモロイハ令代リマシタ、修繕修繕タケノ問題デアレバ簡單デアル修繕ヲシタラバシタナリノ船舶ヲ委付スル、ナウスルモ決シテ不道理ナコトハナイ、船主ハ元元無限責任ヲ負フベキ人間デアル、其レヲ法律ガ制限シタ事アリ、修繕ヲ爲シ得ルダケノ資力ガアツテ修繕シタナラバ其レヲ其儘委付サセテモ構ヒマセヌ、債權者ノ方カラ觀レバ元元無限ニ賠償セシメ得ルモノヲ本條ノ爲メニ有限ニシカ賠償セシムルコトガ出来ヌト云フコトニ爲ラモ居ルノデアルカラ、其船ニ修繕ヲ加ヘタルモノヲ得テモ不當ノ利得デナイト云フコトヲ言フタノデアル、換言シタ事變ノ起タ時ノ有様デ委付スルカ修繕ヲシタル時即チ委付スル時ノ有様デ委付スルカト言ヒテ、委付スル時ノ船舶ヲ委付シタラバ宜イト云フタノデアル、是ニテ船主事變後ニ價ヲ増シタトキニ場合ダケ答ヘタノデアル、修繕シ

テ善クナラタ物ヲ委付シタ宜イト云フコトハ始ト異論ガナイ、ナウスレバ事變後惡クナラタトキハドウカト云フノデス
生徒 委付スルト云フコトハ法律ノ認メタ權利デゴザイマス、ナウシテ此權利ト云フモノハ船舶所有者ヲ保護スルガ爲メノ已ムヲ得ザル規定ト看ナケレバナラス、其レダケヲ恩恵ヲ船舶所有者ニ與ヘタノデアル、故ニ事變後ニ委付スルト云フコトヲ豫期シタ居ル若シ船主方後ニ其船舶ニ故意ニ損害ヲ與ヘルヤウナコトヲ爲シマシタトキニハ其レハ惡意デ爲シタコトデアルカラ其レダケノ賠償ハナセム、其事變ガ發生シマシタ當時ノ狀態ニ於ケル所ノ價格ヲ標準トシタ之ヲ價ハセテスガ惡意ナキトキニ減價シタモノヲ委付スレバ宜イトシマス
講師 諸君今ノ説ハ斯ウダ、事變當時ノ船ノ直打ハ一萬圓デアツタ其レ後デ故意ニ惡クシタ八千圓ノモノニシテ仕舞フダトキニハ其船ト二千圓ヲ出シテ責任ヲ免レ、故意デナイトキハ船ダケデ免レルト云フコトガス、此レハ出来生徒(他ノ)私ハ反對デス、船主ガ委付權ヲ拋棄スルコトガ出来ルカ出来ナイカ

商法第五百四十四條二就テノ推同

場合ニモ其儘ニ委付シテ宜シト謂ハチバナラスヤウダ、ドウデス
生徒ノ意思ノ推定ト云フコトヲ云ヘバ増價シタ場合デモ損害ヲ加ヘタ場合デ
モ同ジデアル委付權ヲ拋棄スルト云フ意思ヲ推測スルコトガ出来ルナラバ、
拋棄セズシテ尙ホ自ラ其船舶ヲ使ハウト云フ推測ニ出テ來ル筈デアリマス
講師 前ノ御方ハ船主ニ委付權ヲ拋棄スル意思ガアルト云フ所カラ説イテ行
タ様デスガ、ソノ未ダ十分ニ言ハナカッタヤウニ思フ、ドウデス、モット外ニ理
由ハナイデスカ、サ、キノ論者ノ説ニ從フト一萬圓ノモノモ二千圓ノ損害ヲ加
ヘテ八千圓ノ價値ニシタナラバ八千圓ノ船ト二千圓ノ金デ宜イト云フノデ
スガ、五千圓ノ損害ヲ掛ケタラドウ爲リマス

生徒 其レハ矢張船ノ外ニ五千圓出セバ宜イノデス
講師 九千圓マデ損ヲ掛ケタラドウ爲ル
生徒 船舶ト云フ名ガアレバ宜イト思ヒマス
講師 ナウスレバ船ガ碎ケタトキハ其レヲ渡サズニ一萬圓ノ正金ヲ渡シテモ
云フ名ガ付ケラレストキハ別問題デアリマス
講師 一萬圓ノ船ガ七千五百圓マデ傷ガ附イテモマダ船舶ト云ヘルデシヤウ、

ナウ云フ場合ニハ二千五百圓ノ船ト其七千五百圓ヲ出セバ宜イト云フコト
ニ爲ルノデスカ
生徒 船舶ト云フ名ガアレバ宜イト思ヒマス
講師 ナウスレバ船ガ碎ケタトキハ其レヲ渡サズニ一萬圓ノ正金ヲ渡シテモ
宜ナナウニ思ヒマスガ
生徒 船舶ヲ委付スルト云フコトガ條文ニアリマスカラ其レハイケマセン
講師 ナウスルト金ヲ附ケナケレバナラスト云フコトハ何處カラ來ルノデス
カ、條文ノ外カラ來ルノデスカ
生徒 條文ノ中カラ來マス併シ金ヲ附ケルト云ヒマスト債權者ノ擔保ヲ債務
者ガ毀壞シタ場合ニ賠償ヲスルト同ジ場合デスカラ直接此條文カラ來ル
ノデハナイデス
講師 擔保見タヤウナ船ヲ滅シタカラ其レニ金ヲ加ヘテ行クノデス事
生徒 ハイ
講師 本條ノ條文外カラ論ジテモ差支ナイトスレバ船主ハ常ニ船舶ノ價格ダ

甲生徒 シレハ云ヘマセス
乙生徒 此論據ハ本條文ノ中カラ來ルト思ヒテス何トナレバ債權者ハ事

變ヲ生ゼシ當時ニ存スル船舶ダケヲ取レル權利ヲ得タノデアルカラ其後ニ
若シ船舶ノ價值ガ少クナルトキハ其足りナイダケハ船舶所有者ノ方デ増シ
テヤラナクレバナラスト思ヒテス
丙生徒 責任ノ制限ニ付テハ二主義アリテ或國ノ商法デハ船主ハ船ノ價額ヲ
遺レバ宜イト云フ主義ダト云フコトヲ聞イテ居マス此他ニ委付主義ガアル
コト云フコトデス

講師 サウスルト日本ハドウチノ主義ヲ採ラタト云フノデス
生徒 委付ト云フコトガアルカラドウシテモ船舶ヲ委付スルコトニ爲ルンデ
アリマス
講師 モウ論點ハ此外ニアリマスマイ船舶ヲ傷クレバ最早委付ハ出來ナイト
云フノト傷ヲ付ケラモ補ヒラシナ其船ト金トヲ出シテ責任ヲ免レルト云フ

ノト、船ヲ丸潰シシテモ船ノ價ヲスツカリ出セバ責任ヲ免レルト云フノト三
ヲニ爲ラタ、一トニダケハ主論者ガアツタケレバ三ヲ付スヤマダ主論者ハ其
イノデス手稍キ是デ問題ヲ解ケルケタ來タガ若シ船主ハ船ヲ賣ラドウシ
マス昨日衝突シタ船ヲ今日賣ラタキハ其主論者ニ云フマヤハ其以テ責任
生徒 其トキハ委付權ガナイト思ヒマシ主論者ニ謝罪セマヤモ其以テ責任
講師 是ハナクデアル最早問題ニ爲ラテ問題ノ殘ル所ハ前キ一説ノ爭ニ爲ラ
テ仕舞フ先デ船舶ヲ委付スルノニ委付スルキ原因ノ起ラタ時ノ船舶ヲ委付ス
ルノデアル唯條文ニ依テ餘地ヲ與ヘテ航海ニ終ニ於ケル船舶ヲ委付ストシ
アルカラ其レニ從フ船舶ニ手ヲ入レテ債權者ノ不利益ニ爲ルトキト利益ニ
爲ルトキトアル修繕ヲスルトキハ其債權者ノ利益ニ爲ル利益ニコトハ成ル
ベキ之ヲ認メ代國家ノ經濟カラ云フマヤ船舶ヤ修繕ニ關シテ其國
ノ財産ガ餘計ニ爲ルカネ之ヲ獎勵スル趣意カネ云フマヤ修繕ヲシタガ爲メ
ニ委付ノ權ヲ失フト云フモ其言ヘキイ諸君ガ言フガ如ク修繕ヲシタガ爲メ
ハ修繕費ヲ其國ヲ委付スル之ニ因テ債權者ノ利益ヲ得ルガ併ガラ修繕ヲ

シテ修繕費ヲ償還セシムルコトハ出来カ、抑モ船主ガ船舶ヲ委付シテ賣リ
 免レルト云フコトハ非常ナ思典デアルカ、外ノ場合ナラ修繕シタラ事務
 管理トカ不當ノ利得トカ修繕費ヲ償還セシムル場合デモ此場合トハ違フ
 此點ニ付テハ船主與論ガナイカラ宜シトシテ又ハ問題トシテ船舶ニ不利
 益ヲ得ベタラドウスル、委付シテ責任ヲ免レルト云フコトハ思典デアアルカ
 成ルベク嚴格ニ解釋シテケレバナラス、誠ニ其當時ノ物ヲ委付セバナラス
 ノヲ自分ノ隨意ヲ盡クシタラデアルカラ委付ノ權ヲナシテモ宜イ、委付ス
 ベキ時ノ船舶ハ其處ニナイカラ委付ハ出来ナイ、修繕スレバ總テ利
 ニ爲ルコトダカラ多少婉曲ノ解釋ヲ許シテモ宜シイガ、不利益ニナル場合ニ
 ハ一步モ擴張スル解釋ヲ許サヌカラ船主ハ委付ノ權ガナクナラ仕舞フトス
 ル、船舶ヲ委付スルト云フコトハニ獨逸ノ執行主義ト云フヤウニ船ヲ以テ責任
 ヲ負フト云フノト他國ノヤウニ船ノ價額ヲ以テ負擔ト云フノトガアリテ獨
 法ノ解釋トシテデナヘ代價ヲ濟セバ宜イト曰フ者モアルガ、ドウモ日本ノ此
 考方カラハ船舶又ハ運賃ノ價額ト云フヤウニ解モラレナイ、殊ニ五百四十五

條ノヤウニ更ニ航海ヲ爲サシメタルトキハマダ船舶ガアリ、立派ナ船舶カモ
 知レナイニ船主ヲシテ最早委付ノ權ヲ失ハシメタル位デアアルカラ、船主
 惡クシタ場合ニハ委付ノ權ヲ失ハシメタ宜カラウト思フ、併シ是ハ隨分立法
 論ニ立入り過ぎタ解釋カモ知レナイ、船主ハ船主ニシテ船主ノ權限ハ
 生徒 ナウ致シマス、修繕スルト云フ考デヤ、船舶ノ價格ガ少クナッタ場合
 ニ於テハ船主ハドクシマス、カモ知レナイ、其時ノ價額ハ良タ
 講師 其問題ハ六个敷イ、通常ハ修繕スレバ其委付スベキ當時ノ價額ヨリモ良タ
 ナルモノデアアルカラ、專ラ其場合ヲ想像シテ論ジタ居、タ
 生徒 併シ修繕シヤウト思フヤッタ所ガ、何等ノ過失モナイニモ拘ハラズ價格
 ガ減ズルト云フ場合ガアルトスルト、ナウ云フ場合ニ於テハ矢張委付權ガ消
 滅スルト云フコトニ爲ルコトデス、カモ知レナイ、其時ノ價額ハ良タ
 講師 修繕ノ事ヲ云ウタノハ普通ノ場合ヲ想像シテ言ウタノデス、其所有者ノ
 所爲ニ因ッテ船舶ガ其時ノ狀況ヨリ良クナル意味デ云ウタ、修繕スレバ普通
 ニ良クナルカラ、其後デ論ジカ、惡クナル場合ハ少し考ヘテバナラス、併

シ善意ヲ修繕シ場合ナラバ委付シ權ヲ失フト云フ譯キハ往カズ、尙ホ
研究シマシム。次ハ問題ハ保險ノ事デアル船舶ニ保險ヲ附テ置イタル
ニ其船舶ヲ委付スルコトガ誤ル、積權者ハ委付スル、クレドモ十萬圓ノ保險
ヲ附ケテ置イタル保險者ハ保險金ヲ取レル、其トキニ其十萬圓ノ金額モ委
付シテ仕舞ハナラモカ、ドカ、是ハ餘程大問題デス、ハ夫處委付
甲生徒ハ私ハ其場合ハ委付シナイデモ宜イト思ヒマス、保險金ハ船舶ニ代
ソト云フ人ガアリマスガ、斷ニ船舶其物ヲ委付シナクレバナラスコトニ爲
居テ、其レニ代ルベキ類ハ委付シテモナイカラ、保險金ハ船舶ニ代
云フ說ヲ取ラモ、日本ノ商法ニ於テハ委付シナイデモ宜イト云フコトニ爲
シ、損害賠償ノ中ニ保險金ヲ還入スト云フクレドモ損害賠償ハ不法行爲ヲ爲
シテ、ソレガ爲メニ生ゼタ損害デアラ、保險金ヲ合ム餘地ガナイト思ヒマス
カ、此場合ニ於テ保險金ハ委付シナイデモ宜イト思ヒマス、其ハ船主
乙生徒ハ保險ニハ損害賠償ト云フ字ヲ使フナイ、損害ヲ填補スルトカ云フヤウ
ニ使フ居ル、然ルモ愛ニハ賠償トアル、ナウスルト云フト法文ノ上カラ觀タモ

此中ニ這入ラ居ラヌヤウニ思フ、併シ抵當ナドニ於テハ抵當權者ハ船舶ニ對
シテ保險ヲ附シタルト云フコトヲ知ラ、抵當ニ取ラ居ルトキ其抵當權者
ハ保險金ヲ取ルコトハナラヌト云フヤウナコトハ不都合ナ說ノヤウニ思ヒ
マス、其ハ船主ハ保險金ハ委付シナケレバナラヌト云フコトヲ言フ居テ、聯合
講師ハ大審院ハ保險金ハ委付シナケレバナラヌト云フコトヲ言フ居テ、聯合
會議ヲ開キ保險金モ委付スベキモノノ中ニ這入ルト云フコトニ決シタト記
憶シテ居ラマス、其ハ船主ハ保險金ハ委付シナケレバナラヌト思ヒマス、其理由ハ損害賠償ハ不
生徒ハ僕モ保險金ヲ委付シナケレバナラヌト思ヒマス、其理由ハ損害賠償ハ不
法行爲ニ因テ生ズルモノデアル報酬ハ契約カラ生ズルモノダト思ヒマス、若
シ契約カラ生ズルモノモ委付スルナラバ不法行爲カラ生ズルモノモ委付ス
ルモノハナラヌ、又損害賠償ハ必ズシモ不法行爲ノミニハ限ラヌダラウト思フ
カラ猶更委付サセル、損害賠償ト楚ニ書イテアル中ニ云ハ矢張保險金モ入ルト
思ヒマス、此條文ハ船舶所有者ラ大ニ保護シタ條文デアラ、其船舶トカ運送貨
トカ報酬下カ損害賠償下カ云フモノヲ委付シテ其責ヲ免ルルハト得ト云

フ保護條文デアルガ保險金ハ其物ノ對價ト見テ宜イダラウト思フカラ、委付
 スル中ニ入レテ宜カラウト思フノデアリマス。其保護條文ハ、
 講師 ナウスルト保險金ハ條文ノ何ト云フ處ニ這入リマス。其保護條文ハ、
 丙生徒 「損害賠償」ニ這入リマス。其保護條文ハ、
 丁生徒 「私モ損害賠償」ト云フ中ニ入レル方ガ至當デアラウト考ヘマス。茲ニ船
 舶ニ付キ有スル損害賠償ト書イタルノハドウ云フトキニ生ジタ損害賠償
 カト云フト、船舶ガ委付スベキ狀態ニ陥ラザル前ノ損害賠償デアラウト思
 マス。其外委付スベキ時ニ第三者カ其船舶ニ損害ヲ加ヘマシタ委付スベキ狀
 態ニ陥ラシメタトキハ損害賠償ヲ取ルコトガ出來マス。其レ等ヲ悉ク包
 含スルデアラウト信ジマス。ナウスレバ其船舶ガ一定ノ危險ニ遭遇セシ場合
 ニ損害ヲ賠償スルト云フ性質ノ保險ト云フモノモ、其損害賠償ト云フ中ニ包
 含セシメテ苦シウアルマイト考ヘマス。其保護條文ハ、
 講師 君ハ本條ニ「損害賠償」ト云フ、モノノ中ニハ衝突ト云フヤウナ事變ノ起ル
 前ニ生ジタル損害賠償權ヲモ含ムト云フノデスカ。其保護條文ハ、

甲生徒 斯ウ云フ意味デゴザイマス。此損害賠償ト云フモノガ大邊廣イ、而シテ
 保險モ一種ノ損害賠償デゴザイマス。若シ保險ヲ含マスト云ヘバ、其保護條文
 由ガアルカト云フコトヲ研究シナケレバナラス。既ニ其船舶ニ付キ有スル損
 害賠償ト云ウテゴザイマスカラ、其損害賠償ガ他ノ契約ヨリ生ジヤウガ又ハ
 法律ノ規定ヨリ生ジヤウガ、船舶ニ付キ有スル損害賠償ト云フ中ニ一般ノ
 損害賠償ハ入ラナケレバナリマセヌ。
 乙生徒 私ハ保險金ハ委付スルコトハ要シナイト思ヒマス。其理由ハ若シ保險
 金モ委付シナケレバナラスト云フコトニシタナラバ不條理ナ結果ヲ見ルダ
 ラウト思ヒマス。元來保險ト云フモノハ總テノ船ニ附スルコト云フ性質ノモノ
 デナイ。唯其船主ガ注意ノ深イ人デアラ付スルシ、注意ノ深タイ人ナラ附
 セナイノデアリマス。然ルニ保險金ハ常ニ委付セシバナラストスルト注意ノ
 深イ人ガ後日深山ノ金額ヲ委付シナケレバナラス、注意ノ深クナカタ人ハ唯
 船ガケラ委付シテ足リ注意ノ深イ人ハ船ニ加フルニ又保險料ヲ損シナケ
 レバナラスト云フコトニ爲ラ、其間ニ程餘不公平ナ結果ヲ見ルダラウト思ヒ

マス、故ニドウシテモチウ云フコトハ認テラレナイ、加之保險ハ損害賠償デナイ法文ノ上カラ觀テモ此損害賠償ト云フコトヲ書イテアル中ニ保險マデモ含マレルト云フコトハ認當デナイト思ヒマス、此意ハ船主ノ人ハ船内生徒、其理由ハ通ラスト思ヒマス、何ナレバ此場合ニハ船舶所有者ハ船舶所有者ノ債權者ト比較テ取ラナケレバナラスト思フカラデアリマス、今ハ場合ニハ注意ノ深イ者ハ保險ヲ附シ深カラザル者ハ保險ヲ附セスカラ同一ニ取扱ウタトキハ不條理ナ結果ヲ生ズルト言ハレマスケレドモ、是ハ前カラ説ガゴザイマシタ通りニ他ノ方面カラ觀テバナラス、兎ニ角船舶所有者ト云フモノハ無限ノ責任ヲ負擔シナケレバナラヌノガ當然デアアルノニ法律ノ思典ヲ以テ委付權ヲ行ウテ債權ヲ免レルヤウニシタラデアルカラ、ツレガ大ナル恩典デアアル、其思典ハ保險ヲ船ニ附シタ者ニモ附セザル者ニモ同ジデゴザイマス、而シテ保險ヲ附シタ者ハソレダケヲ賣力アル者デアアルカラ、其保險金ト云フモノヲ委付シタ所ガ一向不條理ノ結果ヲ生ゼナイ、若シ保險金ヲ委付シテ非常ニ船舶所有者ガ迷惑スルト云フナラバ、委付スルトセザルトハ勝

手デアアルカラ委付セナイデ宜イデゴザイマスカラ不條理ノ結果デアアルト云フコトハ云々ナイト思ヒマス、此意ハ船主ノ人ハ船内生徒、今ハ論者ノ言フコトハ或ハ立法論ニ亙リハセヌカト思ヒマス、其レハ損害賠償ト云フ中ニハ立法論トシテハ今ハ論者ノ言フコトハ當リ、保險金ヲ取ル權利ガアルナラバ其レマデモ委付シテ方宜イコトニ爲ルカモ知レマセヌガ、併ナガラ損害賠償ト云フ中ニハ契約カラ生ズル損害ヲ拂フト云フコトハ含マレナイ、損害賠償ト云フ點字カラ觀ルトソレハ債務ノ不履行或ハ不法行為ノ外含マナイト云フコトガ明カデヌラウト思ヒマス、此意ハ船主ノ人ハ船内生徒、其理由ハ通ラスト思ヒマス、何ナレバ此場合ニハ船舶所有者ハ船舶所有者ノ債權者ト比較テ取ラナケレバナラスト思フカラデアリマス、今ハ場合ニハ注意ノ深イ者ハ保險ヲ附シ深カラザル者ハ保險ヲ附セスカラ同一ニ取扱ウタトキハ不條理ナ結果ヲ生ズルト言ハレマスケレドモ、是ハ前カラ説ガゴザイマシタ通りニ他ノ方面カラ觀テバナラス、兎ニ角船舶所有者ト云フモノハ無限ノ責任ヲ負擔シナケレバナラヌノガ當然デアアルノニ法律ノ思典ヲ以テ委付權ヲ行ウテ債權ヲ免レルヤウニシタラデアルカラ、ツレガ大ナル恩典デアアル、其思典ハ保險ヲ船ニ附シタ者ニモ附セザル者ニモ同ジデゴザイマス、而シテ保險ヲ附シタ者ハソレダケヲ賣力アル者デアアルカラ、其保險金ト云フモノヲ委付シタ所ガ一向不條理ノ結果ヲ生ゼナイ、若シ保險金ヲ委付シテ非常ニ船舶所有者ガ迷惑スルト云フナラバ、委付スルトセザルトハ勝

ヲ報酬ノ請求權ト云フ中ニ入ラナイダラウト思ヒマス歸スル所ハ船舶ガ
船舶ニ付キ有スル損害賠償ト云フ所ニ持テ來ル所デアラウト船舶ノ中ニ這
入ルト云フ論ヲ取ルト莫ニ違ハデ船舶ヲ賣テ其代價ヲ委付シテ仕舞ヘバ責
任ヲ免レルト云フ論ニ傾イテ來ル其レガ其時ニモヤカマシキ言ウタ通り船
舶ヲ賣ラトキニハ最早委付權ガナクナル位デアアル故ニ船舶ノ代リノ物ヲ渡
シテ責任ヲ免レルト云フコトハ出來ナイ法律ハ船舶其モノニ重キヲ置イテ
アルノ故然ラバ殘ル所ハ船舶ニ付キ有スル損害賠償ダケデアアル併シ船舶ニ
付キ有スル損害賠償ト云フノハ衝突ノ起ラノガ船長ノ過失ガ第三者ノ過失
デアルトキニ船主ハ彼等ニ對シテ損害賠償金ノ請求權ヲ有シテ居ルカ其
レヲ債權者ニ遺ツテ仕舞ヘバナラヌト云フコトデアラフ保險ノ場合マデモ
想像シ保險金ヲモ渡セト云フノデナイ諸君ノ言フ如クニ第一「損害賠償」ト云
フ文字ガ當ラナイ第二ニ文字ガ少當ラナイデモ入レルベキ理由ガアレバ
這入ル様ニ解釋ハスルケレドモ無理ニ此文字ヲ曲解シテ入レル程ノ理由ガ
ナイ第三ニ若シ保險ヲ附ケテ居ル人ガ保險金ヲ委付セバナラヌト云フコ

トニ爲ルト保險ヲ附ケテ居ラナイ人ハ碎ケタ船ヲ渡シテソレデ責任ヲ免レ
ルノニ保險ヲ附ケテ居ル者ハ其碎ケタ船トソレカラ尙ホ保險金額ヲ渡サキ
バナラヌコトニ爲リ注意深イ人ノ方ガ損ヲスル様ナコトニ爲ルソレカラ又
是ハ誰モ言ハナカッタガ船舶又ハ船舶ニ代ルベキ物ト云フ中ニ保險金ノ這入
ラヌコトハ他ノ方面即チ保險ノ原理カラモ説キ得ラルル元來保險金ト云フ
ノハ保險料ト相持ツモノデ船主ガ保險料ヲ拂テ居ルカラ保險金ヲ得ルノデ
アル故ニ保險金ヲ得ルメハ船舶ヲ賣テ代價ヲ得ルノト金タ費ガ違フ故ニ船
主ガ船舶ヲ委付シテ保險金ヲ得テ居ルカラト云フチ不當ノ利得デモ何デモナ
イソレヲ得タイガ爲メニ今マデ長イ間保險料ヲ拂テ居タノデアアル斯ウ云
フ理由モアルカラ委付スベキモノ中ニ保險金ヲ入レナイ方ガ宜カラウト
思フ保險ト云フコトヲ賣買ノ如ク説キ入ト物ノ保存ヲ爲ノ如ク説キ入ト物
ノ原狀ヲ維持スル目的ヲ述セシムルモノト説ク人ガアル曰ク保險ハ物ノ保
存ノ爲メニ存ス此船ガナクナッタカラバ保險金ヲ得テ其レデ又同ジ様ナ船ヲ
買フ即チ前船ヲ保存スルト同ジコトダト云フ如シ併シ斯ル原理カラ委付物

ノ中ニ保險金ハ入レラレヌ間モ、
生徒、此保險金ハ抵償權モハ無論通入ラズ、
講師、
次ニ條文ニハ船主ハ船舶運賃損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ委付シテ其實
免ルルコトヲ得トアリ、マシガ是ハ損害賠償權ト報酬權ト共ニ委付スルハ
カ或ハ報酬ダクハ損害賠償ダクハ委付スルハ宜イカドウカデス、
生徒、又ハト書イテアルカラ一方デ宜カラウト思ヒマス、
講師、我法典デハ又ハト云フ字ヲ二ツノ意味ニ使ラアル此カ彼カト云フ意味
ト此ト彼ト云フ意味トデアル、若シ彼ノ意味ナレバ皆含ムヤシニ爲ル、
生徒、矢張是ハ一ツノ方ガ宜クハアリマス、
講師、此條文ハ卒直ニ讀メバ損害賠償ノ請求權又ハ報酬ノ請求權ト爲ル決シ
テ損害賠償ナルコトト報酬ノ請求權ナルコトトナイ、條文ニ損害賠償又ハ報
酬ノ請求權トアルカラサウダト云フハ餘リヒドイ併シ其レニシテ所ガ問
題ガ殘ラ居ル、即チ前ニ述ベタ通りデアアル、其ノ文法カラ言ヘバ又ハト云フハ

孰レカ一ツヲ取ルベキデアアルガ故デハ一ツヲ委付スレバ宜イト云フコトデ
アルマイ、故ニ是ハ及ヒト云フ意味ト看テ宜カラウト思フ、斯ルコトハ海損ノ
定義ニモアル、即チ船長カ船舶及ヒ積荷ヲシテ共同ノ危険ヲ免レシムル爲メ
船舶又ハ積荷ニ付キ爲シタル處分ニ因リテ生シタル損害及ヒ費用ハ之ヲ共
同海損トス、トアル此トキニ嚴ニ船舶カ積荷ノ一ツニ損害アル際ト言ハナイ
船舶及ヒ積荷ニ損害ガアリテモ誰デモ共同海損ト看ルデセウ、船舶ニ付テモ共
同海損ガアリ、積荷ニ付テモ共同海損ガアリ、兩方ニ付テモ共同海損ガアルコ
トニ取ルベキデアアル、故ニ又ハニ重キヲ置キテ文法上ノ孰レカ一ナリト謂フ
ヲ得ナイ、即チ三百二十二條デアアルガ意味ヲ簡略ニ言フト運送取扱人ガ自己
又ハ其使用人ガ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非ザレバ責任ヲ免ルルヲ
得ズトアル、自分カ又ハ自分ノ使用人ガ注意ヲ怠ラナカ、
非ザレバ責任ガアルトニコトデス、サウスルト自己カ又ハ使用人ノ、
注意ヲ怠ラナカ、
タコトヲ證明スレバ責任ヲ免ルルコトニ爲ル、自分ガ注意ヲ怠ラナカ、

コトニ爲ル、自己ガ又ハ使用人カノ就レカガ注意ヲ怠ルナカ、又コトヲ證明ス
レバ宜イト云フコトニ爲、又カシイ、斯ル解釋ハ通ルナ、故ニ愛デハ自己モ
又ハ使用人モト注意ヲ怠ラナイ場合ト云ウヲ結ビ附アル、又ハ「アルト解
ル、此ノ如ク本條デモ損害賠償又ハ」ト云フ、及ヒト云ウヲモ構ハナイダラ
ウト云フ、又ハ「アルト解ル、此ノ如ク本條デモ損害賠償又ハ」ト云フ、及ヒト云ウヲモ構ハナイダラ
次ノ問題ニ移ル、船員ノ大過失ニ因テ積荷ニ大損害ヲ加ヘタルキニ船主ハ船
舶ヲ委付シテ責任ヲ免ルコトガ出来ルカ、五百九十二條ヲ參照セコト云ヒシ
ハ同條ニ船舶所有者ハ特約ヲ爲シタルトキト雖モ船員ノ大過失ヨリ生ジタ
ル損害賠償ノ責ヲ免ルコトヲ得ズトアリ、又船主ハ特約ヲシテモオレ
ハ自分ノ船員ノ大過失ニ付テハ責任ヲ負ハスゾト云ウテモ責任ヲ免レナイ
程デアルカラ船員ノ大過失ニ因テ積荷ニ損害ヲ加ヘタルキニハ船舶ヲ委付
シテ此責任ヲ免ルコトハ出来ナイト言ヘバ如何ニ答ヘル
甲生徒 ソレハ船員ノ權限内デ爲シタコトデアッタラバ縱令重過失ニ因ッ
場合デモ五百四十四條ノ權利ハ行ハレル、何トナレバ別ニ法文ニ制限ガ加ヘ

「アアリマセエスカラ荷モ船長及ビ海員ガ其權限内ニ於テ爲シタ事ナラバ惡意
デアラウガ重過失デアラウガ船主ハ委付シテ責任ヲ免ルコトガ出来ルデア
ラウト思ヒマス」
乙生徒 私ハ權限内ト云フ中ニハ大過失ト云フ場合ハ道入ラスト思ヒマス、船
長ガ大變酒ヲ飲ンダ爲メニ荷物ニ損害ヲ加ヘルト云フヤクナコトハ職務ヲ
行フニ當テ他人ニ損害ヲ加ヘタルト云ヘナイ職務ヲ行フニ當タリト云クコト
ニハ道入ラナイカラ問題ニ歸ラナイト思ヒマス
講師 ソレデハ酒ト云フコトハ先ヅ止メテ職務ヲ行フト云フ事實ガ定マラタ
シテ、其職務ヲ執行中ニ大過失ガアル場合ヲ想像シテ論ジテ御覽ナサレ
生徒 其場合デアアルナラバ委付スルコトガ出来ルト思ヒマス
講師 サウスルト五百九十二條ヲ精神ト背馳ハセナイダラウカ、又ハ「アルト解
甲生徒 若シ委付スルコトガ出来ルナラハ五百九十二條ハ規定ガアルヲモ委付
スルコトガ出来マ、特ニ委付權ヲ船舶所有者ニ與ヘ又他所ニテ特約シテモ
損害賠償ノ責任ガアルト云ウタノハ委付權以外ニ損害賠償ノ責任ガアルト

云フコトヲ明カニシタノデアラウト思ヒマス。然レニ附屬問題ハ實計上ニ於テ
乙生徒ハ船主ニ委付權ガアルカヲトテ五百九十二條ガ要ヲ求メイト云フコトニ
甲ハナラナイト思ヒマス。當リ前ノ過失ノ場合ニ於テハ特約ヲシテ置ケバ責任
ヲ免ルルコトガ出來ルガ、重過失ノ場合ハ特約ヲシテモ責任ヲ免レナイト云
フコトヲ法律ガ規定シタラデアルヲ、委付ト云フコトハ全部ヲ拂ハスデモ宜イ
ト云ウヲ船舶所有者ヲ保護スルガ爲メニ許シテ置クモノデアラウ。故ニ重過失
ノ場合ト雖モ委付權ヲ行フコトガ出來ルト思ヒマス。又ハ附屬問題ニ於テハ
丙生徒ハ五百九十二條ト五百四十四條トハ全然法文ノ立方ガ違フ居ルダラウ
ト思ハレマス。五百九十二條ノ方ハ斯ウ云フ場合デモ責任ガアルゾト云フ責
任ノ範圍ヲ示シ、一方ニ於テハ責任アルモノトシ、其場合ニ於テハ如何ナル程
度デ損害賠償ヲスルカ、一方ノ賠償責任ノ由ヲ發生スル擔保義務ト云フモノ
ヲ五百九十二條ノ方デ規定シテ居ルカラハ是ハ全然法文ノ著眼シテ居ル所ガ
違ヒハセスカト思ヒマス。然レニ附屬問題ニ於テハ、
歸師ハ是ハ多數說ノ通りデアアルヲ、チヨト六ヶ敷キヤウデアアルケレドモ別ニ疑ハ

ナイ。昔カラ運送契約ニ於テ船主ハ色色イ事ヲ契約シテ義務ヲ免レヤウトシ
何モカモ特約デ以テ免レルコトニ爲リ遂ニ世人ヲシテ船主ト云フ者ハ何等
ノ義務モナイ唯運賃ヲ得ル義務ガ殘リテ居ルダケデ、外ニ何レモ義務ガナイト
言ハシムルニ至リ今デモ船荷証券ニハ責任ヲ免レル文句バカリヲ書き果テ
ハ自分ノ過失ニ因ル責任ヲ免レルト云フヤウニ爲ラタ來タ、ソコデアラッセ
ルデ開イタ萬國會議デ此事ヲ定メ即チ船主自身ニ過失ノアルトキハ勿論船
舶ハ航海ニ耐ヘヌトキ船員ニ大過失ノアルトキモ特約ヲ以テ責任ヲ免レルコ
トハ出來ナイトシタノデアアル。是ハ船主ヲ無責任ニ爲ナレメナイ爲メデアラ、
決シテ船主委付權ヲ奪フ積リデナカッタ、船員ニ大過失ノアル場合ニモ船主モ
過失ガナケレバ責任ヲ制限ヲシタカ、然レトモ其理由ガ故ル、故ニ五百四十四條
ハ此場合ニモ適用ガ得ル。是ハ餘リ議論ガナイ。初ニ三ヶ條ニ於テハ、
今度ハ船舶ノ賃借人ハ其船舶ヲ委付スルコトガ出來ル者ト云フ問題デアラ、
生徒ハ私ハ出來ルト云フ說デゴザイマス。併シ之ハ分離シテ解釋シナケレバナ
ラスト思ヒマス。船舶所有者ト賃借人トハ關係ハ其賃貸借契約イ定ムル所ニ

依テヤルベキモノト思ヒタルガ如ク委託ヲ爲シ且モ得ルキト云フハ
第三者ニ對抗スルコトヲ示シザイマスガ如ク之ヲ分ラ必要ガ所ナ
船舶賃借人ハ登記ヲ爲セ第三者ニ對抗スルコトヲ出來サシテ船舶所有
主ト同一ナル權利義務ヲ有シテ居ルマスカラ第三者ニ對スル方面即チ委付
ヲ爲スト云フコトニ付キヤシハ船舶所有者ノ權利ヲ行フコトヲ出來マス
カラ委付ヲ爲ストガ出來ルト思ヒマス併ナガラ船舶所有者ノ賃借人トノ
關係ハ賃借契約ニ依テ定メマスハ主ノ權利ヲ行使スルモノト爲ルベキ
諸師ニツキ分ラ論ズルガ完全ナルガ賃借人ト賃借人船主トノ關係ハ契
約ヲ定マルコトデアルカラ茲デハ契約ヲ破ルセウカクマヤカクハ
生徒他ノ私モ出來ルト云フ說デアリマシテ其論據ハ五百五十七條ニアルト
思ヒマス賃借人ガ船舶ヲ借リテ之ヲ航海ノ用ニ供スルトキハ其利用ニ關ス
ル事項ニ付テハ船舶所有者ト同一ノ權利義務ガアルト云フコトニ爲ルカラ
法文ノ規定カラ觀テモ委付スルコトヲ出來ルト云フ理窟ガ生ズルシ尙モ委
付ト云フ性質カラ觀ラモ然リ元來委付ト云フコトヲ認メテ理由ハ船舶所有

者ノ保護シテ航海業ヲ盛ナラシメルト云フコトデアルカラ賃借人モ委託
權ヲ許シテ航海業ヲ盛ニセシムルト云フコトニシテ方ガ最モ宜イト云フ
所デアル故ニ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有スルト云フ
規定ヲ設ケタモノダラウト思ヒマス

乙生徒 私ハ少シ反對說デゴザイマス一體公序ノ理窟トシテハ前モ御說デ
宜イト思ヒマスガ併シ法文ヲ上カラハ許サスコトト思ヒマス何トナレバ委
付ト云フコトハ所有權ノ委付ヲ云フコトデアリマス所ガ此賃借人ト云フ者
ハ所有權ヲ持タオイト持テナイ者ガ委付スルト云フコトヲ出來ヤク歸ガナイ
法文ニ「第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ストアリマスガ、
船舶所有者諸ノ賃借人トハ違ヒマカク同ジト云フ譯モ往來ス賃借
人ト船舶所有者ト同ジ權利義務ヲ有スルコト云フト、兩方ガ共通シテ有レ得
ル場合モアレバ然ラザル場合モアレ、故ニ船舶所有者ノ權利ハ常ニ賃借人ニ
アルト云フコトハオイト思ヒマス、而シテ賃借人ハ所有權ヲ持タナイカラ勢
ニ法律上此法文中ニハ入ラナイト思ヒマス、故ニ出テ來ルモノナシ

甲生徒は今ノ説ニ從テモスル所有權ガ成イカラ委付ガ出來ナイト申シマスガ、全體此等ノ規定ト云フモハ海運業ヲ盛スルニ關シテ總意カラ出來スルモノデアラウトモ、居居居居居、第三者ハ當船船主ニ對シテ若眼對テ契約スルモノデアラウトモ、其ノ實力如何ト云フコトハ重キヲ置カス其者ガ家ニ幾萬ノ財產ヲ持テ居ルカ、無キ物源アルカハ契約スル者ヲ知ラズトデアラウトモ、目的トシテ所屬船舶ト其ノ附屬品ト所ノ物デアアル、シロダ賃借人ハ無實力者デアラフ其船ヲ賃借シテ居ル、然ルニ其船舶ヲ委付スルコトモ出來ズシテ船舶賃借人ノ財產ヲ以テ償ハシメルコトモスル、彼ハ蓋ダ還減スルコトデアアル、彼ハ所有權ガナイト云フ者ガアル、無論所有權ハゴザイマセ、然ラバナイモ、委付スルコトガ出來ルコト云フト、五百五十七條ノ法律ノ規定ガ之ヲサヘルデアル

講師 少シ御尋ナシタイ、賃借人ハ船舶ヲ委付スル權ヲ與ヘラ置カナイト第三者ガ損ヲスル、第三者ガ其船ヲ見テ居ルンデアアルカラ其人ハ身代シナイトモハ損ヲスルト云ハルガ今ハ賃借人ハ委付權アルカ否カヲ問フテ居ル

デアアル、委付スル權利ガアラモ賃借人ガ委付シナイト云ツタラ君ハドウシマス、君ノ説明ノ理由ナレバ第三者ハ先取特權ヲ與ヘラ置キ宜イデアラシマセスカ、第三者ハ船舶上ノ先取特權ヲ與ヘラ置ケバ今ハ心配ヲ解ケテ來ル、甲生徒 成程權利ナレバ賃借人ガ委付セスト云ヒ得マシヨウ、併シ斯ク言ヘバ其賃借人ハ絕對的ノ責任ヲ負ハセルコトニ爲マスカ、其賃借人ハ絕對的ノ責任ヲ免レル爲メニ自然委付スルコトニ爲リマシヨウ、若シソレガ法律ノ規定上委付ガ出來ナイモノト極デ居リマス、乙生徒 委付ト云フコトハ物ノ處分シカラ權利ヲナメ、若シ處分ハ出來ナイト云フコトガ反對者ノ理由デアアル、併シ船舶ヲ使用ニ因テ生ジタル先取特權ハ船舶所有者ニ對シテモアルヤウニ法律ハ規定シテ居ルカラ其レ等カ別艦ヲ航海業ヲ保護スルガ爲メニ賃借人ニモ處分ト同シキコトヲサセセル權利ヲ與ヘルノデ五百五十七條第一項ノ利用ニ關スル權利ニ付テ其レヲ認メテ居ルトシタ方が正當デアラウト思ヒマス、丙生徒 前キハ反對論ニ付テハ六百八十條ヲ見レバ分ルコトデアリマス、ソレ

カラ先取特權ト云フモノハ第三者保護ノ規定デアリマスカラソレヲ以テ船
 舶賃借人ノ保護ト爲ルベキ五百四十四條ノ中ニ準用スルコトハナラスト思
 ヒマス
 講師是ハ六ヶ敷イ問題デスガ先づ委付スル權利ガオイト云フ説カラ言フ
 法律ノ解釋論カラ言フト自分ノ所有物デナオモノハ處分スルコトハ出漁カ
 イ、委付ハ處分行爲デアル故ニ賃借人ハ賃借物ヲ委付スルコトハ出来ナイト
 云フコトニ爲リ條文カラ云フト船舶ノ利用ニ關スル事項ニ付テハ賃借人ハ
 船舶所有者ト同一ノ權利ガアル併シ處分ニ關スル事項ニ付テハ同一ノ權利
 ガアルト云ウテナイカラ此條文デハ十分ニ賃借人ニ委付ノ權利ガアルトハ
 云ヘナイ又實際論トシテ賃借人ガ何時勝手ニ船舶ヲ委付スルカモ知レスト
 思フトキハ船主ガ安心シテ他人ニ船ヲ貸セナイ賃シタトキハ其レヲ委付
 スルカモ知レナイト云フ恐ガ生ズル賃借人ニ委付スル權利ガアルカラト云
 ヘバ船主ニハイジデモ不利益ニ爲ルカラ彼ハ遽ニ賃借ヲシナイコトニ爲
 ルソレデ賃借ヲ獎勵スル爲メニハ賃借人ガ委付スルコトハナラスト云フ

コトハシナケレバナラスト云フコトデアル斯ク法律論カラモ實際論カラモ
 委付ハ出来スト云フ説ガ立チ得ル
 併ナガラ私ノ説ハ之ニ異ナル船主ニハ委付ノ權利ガアルカラ船主ト同一ノ
 權利義務ヲ有スル賃借人ニモ此權利ガアルト思フ成程利用ニ關スル事項ト
 云ウテ處分ニ關スルト云ウテナイガ利用ニ關スルト云フコトハ廣ク解シ得
 ラレ其廣イ範圍内ニ來リ得ル總テノ事柄ニ付テ賃借人ハ船主ト同一ノ權利
 ヲ有スト看テ宜イノデアル利用ヲシテ結果トシテ衝突ハ起ルカモ知レナイ
 其場合ニ委付スル必要ガ生ズルカモ知レナイソレモ利用ニ關聯シテ委付ス
 ル場合ニ立至ラモノダト云ウテ愛ニ入レバ入レテモ利用ニ關聯シテ委付ス
 賃借人ガ所有者デナイカラ處分ハ出来ナイト云フガ條文ハ所有者デナイ賃借
 人ニ處分ニ均シキ行爲ヲ爲サシメタアル先キニ御話ガアテ通り賃借人ノ爲
 ス船舶ノ使用ニ付テ生ジタル第三者ノ先取特權ハ船舶所有者對シテモ效
 力ガアルト云フノデアルカラ賃借人ガ船ヲ借リテ色色ノ修繕ヲ爲シ船長海
 員ヲ雇入レ石炭ヲ買ヒナゾシテ其債權者デシテ船舶ノ上ニ先取特權ヲ持テ

以テ彼等ニ船ヲ取ラレバウニ爲シ得ル船主ガ行方是ニオキテ船主アルカ
ラオレニ渡セト曰フナモ債權者ハ石炭料ノ爲メ修繕料ノ爲メニ先取特權ヲ
行ヒ之ヲ船主ニ對抗シ得テ自分等デ其船ヲ取ツ仕舞フコトガ出来ル即チ賃
借人ノ行爲ニ因リテ其船船ハ債權者ハ手ニ行クヤウニ法律ガシテ居ル決
テ賃借人ヲシテ隨意ニ船船ヲ處分スルコトヲ得セシメテ居ルガナラバ賃
借人ノ行爲デ船ガ船主ノ手ニ離レバウニシ即チ稍ヤ處分ニ均シイヤウナ
行爲ヲ賃借人ニ爲サシメテ居ルノデアルカラ其規定カラ押シテ委付ト云フ
處分ニ均シイ行爲ヲシテモ構ハスト云フ趣意ト解シ得ラルル況ヤ船主ニ責
任ヲ制限シテ精神ハ恰モ賃借人ニ適用シ得ラルルニ於テヲヤ亞米利加法
ハ明カニ此事ヲ書イテアル日本ニハ書カナカダケハ缺點ガアルガ其趣意
ハ賃借人ニモ船主ト同一ノ權利ヲ與ヘテ居ルト見テ差支カイト思フ
生徒 賃借人ガ船船ヲ沈没セシメタトキニ船主カラ賠償ノ請求ヲ受ケルガ其
危險ヲ保險ニ付スルコトガ出来マスカ
講師 自分ガ借りテ居ル場合ニヤリ損ウタナラバ所有者ニ損害賠償ヲ拂ハキ

バナラスト云フゾデアルカラ其危險ヲ保險ニ付ケルコトハ出来ル
次ニ五百四十四條ハ責任制限ノ規定デス其レヲ一項トシテ二項ニハ前項ノ
規定ハ雇傭契約ニ因リテ生ズル船員ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セストアル
此趣意ハドウ云フコトデス 此項ニハ船員ノ權利ハ船中ニ限リテ求
生徒 是ハ雇傭契約カラ生ズル船員ノ權利ニ付テハ無限ノ責任ヲ負ハオバ
ラスト云フゾデアルカラ其危險ヲ保險ニ付ケルコトハ出来ル
講師 ツコデ船長ノ權利ハドウデス 又船員モ船中ニ限リテ求
生徒 權利ト云フ中ニハ船長ノモ這入ラ居ルガ故ト思ヒマス 又船員モ船中
講師 ドウシテ這入ル船員ノ權利ハ船長ノ權利ノ事ガ規定シテアルハス決前項ニ
於テ船船所有者ハ船長ガ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲ニ付テハ船船ヲ
委付シテ其實ヲ免ルアル船長ノ權利ト云フモノハ何カラ出テ來マス
第二項ニテ前項ノ規定ト云フモノハ何ヲ當テ居ルゾデス 船主ガ前項ニ
テ委付ヲ爲シ得ル場合ニ云フモノハ何ヲ當テ居ルゾデス 併シ第二項ニテ前項
生徒 船長ノ法定權限内ニ行爲ト船員モ職務行爲ヲデス併シ第二項ニテ前項

規定ニ依リ云フ如キ受附ノ居テ船務ノ場合各ノコトヲナシ單ニ船主ニ委
付シ行儀ヲ責任シ免ルルコト云フ如キ受附ノ來タノデス
船主ニ依リ云フ如キ第二項ニ船員ノ權利ト云フ中ニ船長ノ權利ヲモ入レル
ルベシカモ其責任ハ船主ニ在リ船員ノ權利ト云フ中ニ船長ノ權利ヲモ入レル
生徒ノ權利ト云フ中ニ船員ノ權利ト云フ中ニ船長ノ權利ト云フ中ニ船長ノ權利
船主ノ船長ノ事ハ船主ノ前項ニハ船長ノ法定ノ權限内ニ於テ爲シ
タル行爲ノ事ヲ官ヲ居テ行ハル所ガ船長ノ權利ト云フモノハ船長ノ法定
權限内ノ行爲ヲ生ズルモノデナク又船員ガ職務ヲ行フニ當テ加ヘタル損
害デモナク左スレバ船長ノ權利ハ何ニモ前項ニ入ラナイ五百四十四條ト云
フモノハ船長ノ法定ノ權限内ニ於テ行ハル船員ガ職務ヲ行フニ當テ損
害ヲ與ヘタ場合ガケ付クノ規定デアアルカラ海員ノ權利ハ此中ニ道入ラ
ル故ニ何ニモ當ハナカタク船主ノ海員ニ有責任ヲ對抗シ得ルコト爲ル
之ヲ對抗シタルハ海員ノ權利ニ當テアルカラ第二項ヲ設ケタル所ガ船長ノ事ハ
全ク第五百四十四條ニ道入ラナイ船長ノ權利ニ付テハ船主ガ無限ノ責

任ヲ負フコトハ原則通リデアル故ニ第二項ノ如キモノハ船長ニハ不用デア
ル終ニモウツ等スルガ船員ニシテ雇傭契約ニ依ラズニ船員ト爲ル者ガア
ルカドウカ第二項ニ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ云云ト謂フハ必要ナ
ルヤ

生徒 是ハ矢張必要ダラウト思ヒマス海員ガ職務ヲ行フニ當テ責任ヲ負フヤ
ウナ場合ナゾハ雇傭契約ニ因リテ生ズル權利デゴザイマセスカラ……

船主 船員ト船主ノ關係ハ契約ニ因ラナケレバナラスト云フコトハ無論デア
ルガ其契約ハ諸般ノ方々算算モナクドウシテモ雇傭契約シカイカナイ商
法カラ論ジテモ特別法カハ船員法海員雇入規則ニ依リテ觀テモト云フモ雇傭
契約デナケレバナクモアルモ雇傭契約ニ因リテ生シタル云云ト謂フハ無
益ナルヲ見テモ無益デナクモアルモ雇傭契約ニ因リテ生シタル云云ト謂フハ無
生徒ニ無用ノ事デアリ而モ其責任ハ船主ニ在リ船員ノ權利ト云フ中ニ船長ノ權利
船主ノ權利ト云フ中ニ船主ノ權利ト云フ中ニ船主ノ權利ト云フ中ニ船主ノ權利
ト云フモノガ不ナク船主ノ爲メテ計ラ權利ヲ得ルコトガ深山アル

商法目次

○商行為ノ意義及ヒ商行為ノ種類ニ付テノ講演……………	法學士 松本 蒸治	一
○商法第一條ニ付テノ講演……………	法學士 松本 蒸治	二
○商法第二條及ヒ商人ニ付テノ講演並ニ推問……………	法學士 松本 蒸治	三
○商業登記及ヒ商號ニ付テノ講演並ニ推問……………	法學士 松本 蒸治	四
○商業ノ譲渡及ヒ商業帳簿ニ付テノ講演……………	法學士 松本 蒸治	五
○株式會社ノ資本ニ付テノ講演……………	法學士 松本 蒸治	六
○商人ニ關スル推問及ヒ小商人ニ付テノ講演……………	法學士 松本 蒸治	七
○商業使用人及ヒ代理商ニ付テノ講演……………	法學士 松本 蒸治	八
○株主カ株金ヲ拂込テ忘テタル場合及ヒ株主總會ノ決議低額ニ關スル説明……………	法學士 松本 蒸治	九
○推問……………	法學士 松本 蒸治	一〇
○商行為無効期ノ規定ニ就テノ推問……………	法學士 松本 蒸治	一一
○賣買、交互計算及ヒ匿名組合ニ付テノ講演並ニ推問……………	法學士 松本 蒸治	一二

モ更ニ深造ナル學理ヲ研究スル地位ニ在リ故ニ予カ本學年ニ於ケル高等科講義ハ專ラ口頭推測ノ方法ニ依ルヘシト雖諸君向ニ特ニ如上ノ研究方法ヲ勸メ以テ其研鑽ニ力ムル結果ヲ批評スルコトヲ爲サント欲ス予ノ自ラ講義スルカ如キ單例外ニ適合ニ於テ之ヲ爲スヘキミ予ハ寧ロ諸君ノ說ヲ採納セシムル欲スル意趣此方法ヲ最モ演習ノ性質ニ合ヒ諸君ノ研究ニ資スル所多ク利益スル所亦多ク其旨ヲ得度ニ爲ス

本日ハ經濟學ノ根本概念ニ付テ推測更ニ試ムヘシ答ハ諸君ニ當テス

講師 欲望ト經濟的活動トノ關係如何ニ思フモ人々其趣異ニスハ生徒 欲望ト之ヲ主觀的ニ觀察セザル人間心意ノ狀態ニシテ經濟的活動トハ欲望ノ外界ニ向テ活動スル狀態ナリ

講師 欲望ノ種類ニ經濟的ノモノト非經濟的ノモノトアリ生徒 經濟學上ノ欲望トシテハ非經濟的ノ欲望ナルモノアルコトナク總テノ欲望ハ經濟的ナリ有形ナルモノハ勿論無形ナルモノ例ヘハ娛樂ヲ求メントスルモノノ如キモ亦經濟的ノ欲望ナリ

講師 欲望トハ單ニ不足ノ感覺ト之ヲ滿タサントスル願意トヲ包括スル所ハ心の作用ニ過キス經濟ナル事ニ關係ナキモノアラザルヤハ經濟學上ノ生徒 ナシ

講師 關係トハ如何ニハ生徒 經濟學上ノ關係ハ其性質ニ依リテ經濟學上ノ範圍ニ屬スルモノト非經濟學上ノ範圍ニ屬スルモノトニ別ス

生徒 直接及ヒ間接ノ影響是ナリハ經濟學上ノ範圍ニ屬スルモノト非經濟學上ノ範圍ニ屬スルモノトニ別ス

講師 深遠ナル知識ヲ得ントスル希望(經濟法律等ニ關スル知識)ハ經濟的活動ト如何ナル關係アリヤ

生徒 スル希望モ亦經濟的活動ナリ例ヘハ此等ノ希望ヲ満足セシカ爲メニ學校ニ通學シ授業料ヲ納メ書籍ヲ購求スルカ如キ悉ク經濟的活動ナリ

講師 然ラハ自己單獨ニ思考ヲ同ラシ知識ヲ得真理ヲ發見スルモノハ如何ニ生徒 仍ホ經濟活動ナリト信ス

講師 先ツ其理由ヲ知ラシカ爲メニ經濟ノ意義ヲ問フ蓋チ亦經濟學上ノ問題ナリ

生徒 經濟トハ一人カ貨物ノ生産、消費、分配又ハ交換等ニ關スル一切ノ行動ナリ

講師 然ラハ例ヘハ百姓ノ穀物ヲ作ル亦經濟ナリヤ
生徒 然リ
講師 若シ百姓ノ蒔ケル種ヲ穿ル者アリハ如何斯所行爲モ亦經濟ナリヤ
生徒 否生産分配消費及ヒ交換等ニ關スル必要ナル行爲ノミヲ經濟ト謂フ其
必要ナラサルモノハ經濟的活動ニ非ス
講師 以上ノ答解略ホ宜シ更ニ問フ欲望ハ總テ經濟的ノモノナリヤ換言セハ
欲望ノ觀念ハ總テ生産分配交換及ヒ消費等ニ必要ナル行動ニ合フモノナリ
ヤ

生徒 答ヘス

講師 欲望ハ之ヲ經濟的ノモノ又ハ非經濟的ノモノ等ノ區別ヲ爲スヘカラス
又經濟學上ノ欲望若クハ心理學上ノ欲望等ノ區別ヲ爲スヘキモノニ非ス
唯經濟學ヲ論スルニ必要ナル觀念トシテ先ツ欲望ヨリ始ムルノミ故ニ欲望
ハ悉ク經濟學上ノ觀念ナリト謂フコトヲ得ス價格資本等ハ經濟學上定マレ
ル觀念ニ對シテ之ヲ謂フモノナレトモ然レトモ欲望ハ如キ根本ノ觀念ハ之

ヲ經濟學上ノモノト限極スヘカサルナリ

講師 欲望ハ經濟ニ如何ナル關係ヲ有スルヤ

生徒 欲望ハ經濟ノ起ル根本ノ觀念ニシテ欲望ナクシハ經濟ナル現象ハ起ル

コトナカルヘシ而シテ欲望ハ物ノ價直ニ伴ヒテ發生ス故ニ價直ナケレハ復

タ欲望ナク價直ニ對スル欲望ナケレハ隨テ經濟ナリト謂フモノナリヤ

講師 欲望ヲ満足セシムル行爲ハ總テ經濟的ノモノナリヤ

生徒 否欲望ハ財貨ヲ以テ満足セシメ得ルモノト然ラサルモノトアリ其財貨

ニ依ラサル欲望満足ノ行爲ハ非經濟的ノ行爲ナリ

講師 然ラハ則テ其所謂非經濟的ノ欲望トハ如何トス

生徒 或地位ヲ得ンコトヲ希望スル欲望ノ如キ是ハ非經濟的ノ欲望トス

講師 此ノ如キ欲望ハ經濟ニ關係ヲ有スルコトナキヤ

生徒 唯其欲望ヲ満たサンカ爲メニ經濟的ノ行動ヲ爲スコトアリ然レトモ其

行動ハ欲望ニ間接ナルモノナリ

講師 然ラ多少經濟上ノ關係ヲ有ス此ハ如何問題ハ實際上必要ナルモノニ非

ナル也。經濟學上ノ觀念ヲ定ムル上ニ於テ必要ナリ唯欲望ナルモノハ經濟學上特別ノ術語ニ非ス又欲望其レ自體ハ經濟的ノモノナリヤ否ヤノ區別ヲ立ツルコトヲ要セス又之ヲ爲スコトヲ得ス若レ強ヒテ之カ區別ヲ爲テハ其欲望ヲ滿タスカ爲メニ貨物ヲ要スル所ノモノト之ヲ要セタル所ノモノト爲スコトヲ得ヘシ然レトモ斯ル區別ノ必要ナシ唯經濟ノ起ル原因ハ欲望ナルヲ以テ先ツ之カ觀念ヲ説明スルノミ例ヘハ法律學上人ノ意義ヲ定ムルコトアラシモ其性ノ善惡等ハ法律學上何等ノ必要アルモノニ非スシテ法律學ノ研究ヲ進ムヘキ根本ノ觀念ヲ論スルニ付キ必要ナルコトアルノミ欲望地亦然ル

更ニ問フ欲望ニ簡人的ノモノト社會的ノモノトノ區別ヲ立ツルコトヲ得ヘキヤ

生徒 得ヘシ簡人ヲ基本トシテ觀察スルモノハ簡人的ノ欲望ニシテ國家ヲ欲望ハ社會的ノ欲望ナリ

講師 簡人ノ欲望ニモ亦社會的ノモノト簡人的ノモノトノ區別ナキヤ

生徒 然リ簡人的ノ欲望ニモ直接ニ自己ノ爲メセントスルモノト社會ノ爲メニセントスルモノトノ區別アルヘキヲ以テ其區別ヲ爲スコトヲ得ヘシ講師 然リ欲望ノ區別ノ如キハ其觀察點ノ異ナルニ從ヒテ各種ノ種類ヲ爲スコトヲ得ヘク到底絕對的ノ區別ヲ立ツルコトヲ得サルナリ

又問フ欲望ト社會トノ關係如何

生徒 文明ノ進步ト共ニ人類ノ欲望ハ増大且高尚ニ至ルヘシ今野蠻人民ノ欲望ト現時文明國人ノ欲望トヲ比較スレハ容易ニ其關係ヲ知悉スルコトヲ得野蠻人ノ欲望ノ如キハ單ニ其衣食住ニ關スルモノノミニ限極セラレ而モ其欲望タルヤ將來ニ關スル永續的ノ念慮ナク單ニ饑ニテハ則テ食ヲ得ンコトヲ念ヒ渴シテハ則テ水ヲ呑マンコトヲ願ヒ雨レハ則テ屋ニ隱ルルコトヲ欲スル如キニ止マル然ルニ世ノ進步ト共ニ實ニ衣食住ノ欲望ノ高尚ニ趨クミナラス其以外ニ於テ亦種種複雜ナル欲望ヲ生セシコト現時ノ生靈ノ狀態ヲ見テ之ヲ知ルコトヲ得

講師 經濟上ノ進步ハ文明ノ進步ハ一部分ナリ

生徒 然レ一部等ニ相違キモ南兩相持サテ其進歩ヲ導クモノトス

講師 欲望ノ進歩ト文明ノ進歩トノ關係如何

生徒 人間ノ欲望ノ多端ナルニ從ヒ文明ノ進歩ヲ促スベク又文明ノ進歩ニ俾

ヒテ人ノ欲望モ亦複雜ト爲ルニ至リ是レ亦南兩相持サテ其發達ヲ助ケ

ルモノトス

講師 經濟上ノ進歩ニ隨ヒ人間ノ欲望多端ト爲ルヤニ對シテ其發達ヲ助ケ

生徒 否人間ノ欲望ノ進歩アリテ然ル後ニ經濟上ノ進歩アルナリ是レ經濟上

ノ活動ハ常ニ人ノ欲望ニ基クモノナレハナリ其國情ニ應ジテハ

講師 先シ經濟上ノ進歩アリテ然ル後人ノ欲望増加スルコトアリト謂フナ

得タルヤ

他生徒 予ハ右如ク謂フコトヲ得ヘシト信ス

講師 然リ是レ相互ノ關係ナリ互ニ原因ヲ成スト謂フコトヲ得ヘシ唯經濟上

ノ進歩ノ由來スル起源ハ欲望ニシテ其點ヨリ言フキ欲望ノ原因ナリ相

互ハ幼稚ナル時代ニ在リテハ人間力粗穢ノ考ヨリ欲望ヲ起シテ經濟上ノ進歩

ヲ來ス場合多シト雖モ世ノ進ムニ隨ヒ之ト反對ノ現象ヲ生サルコトアリ故
ニ欲望ハ經濟上ノ進歩ヲ促ス原因ト爲ルモ同時に經濟上ノ進歩ニ因リ欲望
増加ヲ來シ互ニ相關聯スルモノナリ凡ソ社會上ノ事物概テ此ノ如クナル
ニヘシト雖モ經濟上ノ現象ニ於テ殊ニ然リトス

價直ノ種類其關係價格ト價直及ヒ物價トノ關係

物價ノ騰貴ニ關スル推問

經濟學博士 金 井 延

講師 價直ノ分類如何
生徒 價直ハ之ヲ利用價直及ヒ交換價直ニ分類スルコトヲ得ヘシ而シ
テ交換價直トハ或ニ箇ノ物カ他ノ物ト交換シ得ルニ適當ナル價直ヲ謂ヒ利

用價直ト交換即チ他物ニ關係ナクテ交換ニ人々利用ニ適スル性質
生徒 然ラハ併立共存ノ關係ナリヤ

講師 利用價直ト交換價直トノ關係如何學問上 金 貨 紙 貨

生徒 利用價直ハ交換價直ノ要素ニシテ即チ利用價直ヲ有セタル物ハ交換價

直ノ觀念生セタルヲ關スル問題

講師 一方カ原因ニシテ他方カ結果ナリヤ 買入及賣入ノ關係

生徒 原因結果ノ關係ニ非ス

講師 然ラハ併立共存ノ關係ナリヤ

生徒 同一物ヲ兩面ヨリ觀察セタルモノナリヤ

講師 兩面タル所以ヲ詳述セヨ 買入及賣入ノ事實を以て例とシテ

生徒 利用價直ハ儲蓄的ノモノニシテ交換價直ハ比較的ノモノナリ 買入及賣入

ニシ場所ヲ異ニシテ定マルヘキモノナルヤ

生徒 各場合ニ定マルヘキモノナリヤ 買入及賣入ノ區別

講師 然ラス利用價直及ヒ交換價直ナル觀念ハ一物ニ對スル觀念ニシテ相關

聯シテ單一ニ認メタルモノナリ即チ利用價直ヲ認ムルニハ之ヲ認メタル

財貨ノ利用ノ大小強弱ヲ考ヘテ決セラルヘキモノトス詳言セハ交換價直

アル場合ニ於テハ此交換價直アルカ故ニ當該財貨ノ利用價直益々確固且大

ナルニ至ルモノナリ此ノ如ク利用價直ハ交換價直ニ依リテ確定セラレ交換

價直ハ之ヲ有スル財貨ノ利用如何ニ依リテ生ズルモノナルカ故ニ兩者ノ關

係ハ車ノ兩輪ノ如ク相待テ始メテ完全ナルモノト謂フ得ヘシ其ハ

故ニ此意味ニ於テハ空氣等ハ利用價直ノ不完全ナルモノナリト謂ヒテ可ナ

リトモ可シ 買入及賣入ノ事實を以て例とシテ

講師 價格トハ何ナリヤ 買入及賣入ノ事實を以て例とシテ

生徒 價格トハ畢竟價直ノ異名ナリヤ 買入及賣入ノ事實を以て例とシテ

講師 然ラス交換價直ナル觀念ハ所謂可能性ナリ果シテ現實交換ナルモノ否

キハ未定ノ問題ナリ此ノ如キ可能性ト現ニ交換ナル事實トハ之ヲ混同ス
ヘカラス即チ交換カ事實ト爲リタルトキ又ハ交換アリ得ルコトヲ確ニ前提
トシタル場合ニ於テ他ノ財貨ヲ以テ言表ハシタルモノ之ヲ稱シテ價格トハ
曰フナリ約言セハ價格ハ交換價值ノ實現ニ外ナラス

講師 價格ト物價トノ區別如何 諸君諸君、不佞余セハカキセキ、諸君、百セ
生徒 價格ハ單ニ財貨ト財貨トノ交換比例ナラト雖モ物價ハ財貨ノ一種タル
交換ノ媒介物即チ貨幣ヲ以テ言表ハシタル價格ナリトセハ、此ニ兩義ノ間
講師 物價ト時價トハ區別アリヤ 諸君諸君、交換價值ニ現レモ、諸君、諸君、
生徒 區別アリ時價ハ貨幣ヲ以テ特定ノ時ニ於テ、物價ハ諸君、諸君、
大別ニ、時價ハ、大別ニ、諸君、諸君、
講師 然レ物價ハ或意味ニ於テ抽象的ニ、時價ハ具象的ノ觀念ナリ而シテ
市價ナル語ハ二様ノ意義ニ使用セラル通常經濟界ニ於テ用ラルルハ時價
ノ意ニシテ學問上ニ於テハ往往廣ク物價ト同意義ニ用ヒラル
講師 米價トハ如何

生徒 米ナル特定物ノ價格カ貨幣ニテ言表ハサレタルモノナリ
講師 物價ト米價トノ差異如何 諸君諸君、
生徒 物價ハ總テ物ニ通スル觀念ナリト雖モ米價ハ特定物タル米ニ對スル
價格ノ觀念ナリトハ、然レセハ、
講師 物價ノ騰貴トハ何ナリヤ 諸君諸君、
生徒 貨幣ノ下落ナリヤ 諸君諸君、
講師 貨幣ノ下落ハ物價騰貴ノ原因ニ非スヤ 諸君諸君、
生徒 然レ混同セヨ 諸君諸君、
講師 物價騰貴ノ原因ハ常ニ貨幣ノ下落ニ在リトモ、
生徒 然レ然レ、
講師 然ラハ日清戰爭ノ後何故物價カ騰貴セリヤ 諸君諸君、
生徒 貨幣ノ下落ハ原因ナリト信ス 諸君諸君、
講師 否物價ノ騰貴ハ常ニ貨幣ノ下落ニ原因ナリトモ、
原因結果ノ問題ト事實問題トハ之ヲ混同セズヤ 諸君諸君、

物價ノ騰貴セシハ固ヨリ當時ノ本位貨幣即チ銀ノ下蓄之カ原因シ成セルコト勿論ナリト雖モ其重ナル原因ハ却テ他ニ存セルモノリ如シ即チ貨幣ノ下落ヨリモ寧ろ奢侈ノ増長及ヒ事業ノ勃興ニ基因シ種種ノ財貨ニ對スル需要ニ供給ニ超過シタルコト即チ是ナリ殊ニ銀ノ最モ下落セシハ二十六七年ニ在リシハ疑ナキ事實ナリ而シテ三十年十月一日ヨリ我邦ハ金貨本位ト爲ラタリ其金貨ハ下落セタルノミナラス騰貴ノ傾向アリ然ルニ十月以後尙ホ今日ニ至ルマデ物價ハ常ニ騰貴セリ故ニ最近日本ノ狀態ニ於テハ貨幣ノ下落ハ物價騰貴ノ原因トシテハ洵ニ弱ク寧ろ數フルニ足ラスシテ却テ他ノ原因ヨリ來レル騰貴多キニ居レリト謂ハサルヘカラス物價騰貴ハ貨幣ノ下落ニ原因ストハ所謂分量主義ノ探レル理論ニ根據スルモノナリト雖モ以上論スルカ如ク實際上ハ然ラサルナリ而シテ此問題タル唯リ我邦ニ於テ然ルノミナラス歐洲ニ於テモ亦然リ近時歐洲ニ於ケル物價下落ノ原因ハ實ニ金ノ騰貴ニ在ルノミナラス機械ノ發明交通ノ便益増加シタル事實即チ生産法ノ發達モ亦其大ナル原因ヲ成セルコト疑ヲ容レサル所ナリ

要スルニ物價騰貴ノ原因ハ之ヲ能ク區別シテ論ズルヘカラス即チ貨幣ノ方面ヨリ來ルコトアリ或ハ他ノ原因ヨリ來ルコトアリ或ハ又兩種原因ノ合併ヨリ來ルコトアリト論セザレハ正當ノ説明ニ非ス

本位貨幣補助貨幣並ニ貨幣制度ニ付テノ推問

金貨ニ井金日延

講師 本位貨幣並ニ何ノ點ニ於テハ
生徒 支拂金額無制限ナキ貨幣
講師 補助貨幣ト如何
生徒 法律ノ規定セル制限ヲ超モテ支拂ヲ得ト容許サル貨幣ヲ謂フナリ
講師 我邦ニ於テ如何ナル物ヲ以テ補助貨幣トセバ

生徒 要スルニ金貨ニ非タル貨幣ハ全體對外ナラサルナリ

講師 我貨幣法第二條ニ純金二分ヲ以テ貨幣ノ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ストア
利所稱單位ハ何ゾヤ

生徒 單位トハ計算ニ於ケル價格ノ基點ニシテ單位以上ハ之カ倍數ヲ以テ算

シ其以下ハ分數ヲ以テ算スルモノナリ

講師 單位ヲ有形ニ表ハセルモノハ何ナリヤ

生徒 純金二分ヲ以テシタル一圓ナリ即チ一定ノ物質ニシテ今日ニ於テハ金

屬ヲ以テス

講師 然リ單位ハ一定ノ重量一定ノ性命ヲ具備セタル金屬ヲ以テ之ヲ計算
ノ基點ト爲シ計算ノ根據タルモノナリ

講師 單位ニ相當スル所ノ貨幣カ現ニ存スルコトヲ必要トスルヤ否ヤ

生徒 實際上現存スルヲ便利トス

講師 日本ニ於テハ純金二分ヲ以テ一圓ト稱シ之ヲ單位トスルモ現今ニ在リ

テハ一圓ノ貨幣ハ存在セシテ唯貨幣ニ非タル兌換券アルノミ耳ヤ貨幣ハ

生徒 現今存スル一厘若クハ二厘錢ハ貨幣ナリヤ否ヤ

講師 其レハ從來通用セタル過去之貨幣ニシテ其通用力ヲ擔保セル法文

アリテ通用セルニ故ニ新ニ鑄造スルコトヲ許サス固ヨリ貨幣法ニ所謂貨

幣ニ非タルヤ當ラ埃タホ

講師 假ニ一圓ノ兌換券ナシトシテ日本現今ノ趨勢上所謂單位ニ相當スル貨

幣ヲ鑄造スルコトハ必要ナリヤ否ヤ

生徒 固ヨリ各國人民ノ生活ノ程度如何ニ因リ一概ニ論定スルコトヲ得スト

雖モ我邦現今ノ狀態ニ在リテハ一圓貨幣ヲ造ルハ可ナリト信ス

講師 人民ノ生活ノ程度ヨリ觀察スルノ外他ニ理由ナキヤ

生徒 中答フル者ナシ

講師 一圓貨幣ハ我邦現今ノ狀態ニ於テ生活ノ程度上最も使用ニ適スルモノ

ナラス一圓貨幣ナキトキハ又固ヨリ一圓紙幣ナキモノトシテ往往ニシテ人

類ノ心理上不知不覺奢侈ニ陷ルノ弊アルヲ免レス例ヘハ通常一圓ヲ以テ足

ル懇親會ヲ爲スニ當リ一圓貨幣ナキカ爲メ遂ニ一圓五十錢ヲ徒費スルニ至

究ノ結果金貨本位ノ良好ナルコトヲ確信シテ單本位制ヲ行ヒタルニ非サルナリ約言スレハ獨逸カ金單本位制ヲ採用シタルハ國家統一策ヲ購セントスルトキニ當リ偶佛國ヨリ得タル償金アリタルヲ好機會トシタルノミ他ニ深キ理由ノ存セシニ非ス隨テ當時存在シタル銀貨ノ一種タル「ターレ」ハ從來聯邦諸國ニ用ヒラレタル貨幣ニシテ其使用高モ亦非常ニ多カリ然ルニ當時ニ於テ所謂「ターレ」ヲ改鑄シテ新貨ヲ製出スルコトハ事實上不能ノ事ナリシヲ以テ法律ハ金貨ヲ以テ本位ト爲シタルト同時ニ尙ホ「ターレ」ヲ通用ヲ許シタルナリ然レトモ固ヨリ「ターレ」ヲ本位貨幣トスル希望ニ非スシテ寧ロ單ニ一時ノ便宜處分トシテ其通用ヲ許シタルニ過キタルヲ以テ政府ハ漸次之ヲ引上ケ補助貨ト爲ス意思ナリ然ルニ其策急ニ行ハレス隨テ「ターレ」ノ無制限通用ヲ許シタルハ獨逸ノ金貨本位制度ノ妨害ヲ爲シタルモノナリ故ニ事實ニ於テハ最初ハ金貨ニ比シ「ターレ」ノ流通多ク後ニ至リ併用セラレタリ然ルニ世ノ變遷ト共ニ漸次「ターレ」ハ不入望ト爲リ事實ニ於テ往往其授受ヲ拒否セラルルニ至リ數年來「ターレ」ノ處分ヲ實行セントスル

モ世界ノ形勢ハ漸次複本位制カ歡迎セラルルニ至リタルヲ以テ結局兩本位ヲ採用スヘキナリトノ理由ヲ以テ急ニ「ターレ」ヲ廢止スルノ要ナシト主張シ議會ノ通過ヲ見ル能ハサリ然ルニ最近即チ一昨年確然金貨本位ヲ採用シ同時ニ「ターレ」ノ處分法ヲ規定スルニ至リタリ故ニ一昨年マテ「ターレ」ノ通用ハ事實上默認シタルニ止マラスシテ其通用ヲ法令上許シタルモノナリ我邦ニ於テモ明治四年金單本位ノ基礎ヲ立テ後複本位制ト爲リタルモ事實ニ於テハ銀貨ノミ流通セリ又例ヘハ西南戰爭ノ當時並ニ其後ノ如キハ紙幣ノミ流通シタリ其變遷ノ有様ハ大體ニ於テハ獨逸ニ勞略タリト雖モ我邦ニ於テハ維新以來金貨ノミノ行ハレタルコトナシ今日金單本位ヲ實行シツツアリト雖モ事實ニ於テ其流通ヲ見ス固ヨリ準備金タル金貨存スルハ言フ塊タス

講師 複本位制度ノ長所如何

生徒 物價ノ變動ヲ少カラシムル點即チ補償作用是ナリ

講師 然リ尙ホ他ニナキヤ

經濟學 目次

○金貨本位制實施ノ影響及ヒ戰後財政ニ付テノ推問.....	法學士 有賀長文	一
○通貨ト物價トノ關係ニ付テノ推問並ニ紙幣發行ニ關スル講演.....	法學士 有賀長文	一三
○經濟學上ノ根本問題ニ付テノ推問.....	法學博士 金井 延	二三
○價直ノ種類、其關係、價格ト價直及ヒ物價トノ關係、物價ノ騰貴ニ關スル推問.....	法學博士 金井 延	三一
○本位貨幣、補助貨幣並ニ貨幣制度ニ付テノ推問.....	法學博士 金井 延	三七

經濟學 目次 終

法律博士 齋藤十一郎

民事訴訟法

民事訴訟法

民事訴訟法目次

○共同訴訟ニ付テノ講演.....	法律博士 仁井田益太郎	一
○主參加ノ訴ニ付テノ講演並ニ推問.....	法律博士 仁井田益太郎	九
○請求ノ原因ニ關スル講演並ニ推問.....	法律博士 齋藤十一郎	一五

民事訴訟法目次 終

民事訴訟法目次

和佛法律學

吳事稿篇目次第

[illegible]

專書篇目表

高等科講義錄（三十六年度）

刑法

和佛法律學校

法律學博士 岡田朝太郎

刑法目次

○ 刑法第七十七條ニ付テノ推問.....	法學博士 岡田朝太郎	一
○ 刑法改正案比較其他ニ付テノ講演及ヒ推問.....	法學博士 岡田朝太郎	七
○ 謀殺罪ニ付テノ講演.....	法學博士 岡田朝太郎	二九
○ 脅迫罪及ヒ其他ニ付テノ推問.....	法學博士 岡田朝太郎	三四
○ 毆打創傷罪自殺及ヒ墮胎罪ニ付テノ講演.....	法學博士 岡田朝太郎	三九
○ 犯罪ノ定義ニ付テノ講演.....	法學博士 岡田朝太郎	四五
○ 一罪ト數罪トノ區別ニ關スル推問並ニ講演.....	法學博士 岡田朝太郎	五五

刑法目次終

刑罰目次

法律學博士 岡田朝太郎

附目次

○一、概論	一、概論	田中	正
○二、民法	二、民法	田中	正
○三、刑法	三、刑法	田中	正
○四、訴訟法	四、訴訟法	田中	正
○五、行政法	五、行政法	田中	正
○六、國際法	六、國際法	田中	正
○七、經濟學	七、經濟學	田中	正
○八、社會學	八、社會學	田中	正
○九、倫理學	九、倫理學	田中	正
○十、教育學	十、教育學	田中	正
○十一、衛生學	十一、衛生學	田中	正
○十二、地理學	十二、地理學	田中	正
○十三、歷史學	十三、歷史學	田中	正
○十四、藝術學	十四、藝術學	田中	正
○十五、宗教學	十五、宗教學	田中	正
○十六、政治學	十六、政治學	田中	正
○十七、軍事學	十七、軍事學	田中	正
○十八、航海學	十八、航海學	田中	正
○十九、農學	十九、農學	田中	正
○二十、工學	二十、工學	田中	正
○二十一、醫學	二十一、醫學	田中	正
○二十二、獸醫學	二十二、獸醫學	田中	正
○二十三、藥學	二十三、藥學	田中	正
○二十四、建築學	二十四、建築學	田中	正
○二十五、造園學	二十五、造園學	田中	正
○二十六、園藝學	二十六、園藝學	田中	正
○二十七、林業學	二十七、林業學	田中	正
○二十八、漁業學	二十八、漁業學	田中	正
○二十九、牧畜學	二十九、牧畜學	田中	正
○三十、農業學	三十、農業學	田中	正
○三十一、工業學	三十一、工業學	田中	正
○三十二、商業學	三十二、商業學	田中	正
○三十三、銀行學	三十三、銀行學	田中	正
○三十四、保險學	三十四、保險學	田中	正
○三十五、稅務學	三十五、稅務學	田中	正
○三十六、會計學	三十六、會計學	田中	正
○三十七、統計學	三十七、統計學	田中	正
○三十八、圖學	三十八、圖學	田中	正
○三十九、測量學	三十九、測量學	田中	正
○四十、地質學	四十、地質學	田中	正
○四十一、礦山學	四十一、礦山學	田中	正
○四十二、冶金學	四十二、冶金學	田中	正
○四十三、鑛務學	四十三、鑛務學	田中	正
○四十四、鑛山學	四十四、鑛山學	田中	正
○四十五、鑛務學	四十五、鑛務學	田中	正
○四十六、鑛山學	四十六、鑛山學	田中	正
○四十七、鑛務學	四十七、鑛務學	田中	正
○四十八、鑛山學	四十八、鑛山學	田中	正
○四十九、鑛務學	四十九、鑛務學	田中	正
○五十、鑛山學	五十、鑛山學	田中	正

附目次

高等科講義錄(三十六年度)

答案批評

和佛法律學校

附錄 法律學

答 案 冊

答案批評目次

○民法親族編問題	法律學士 鶴 丈一郎	一
○刑事訴訟法問題	法律學士 鶴見 守義	九
○商法總則編及ニ商行爲編問題	法律學士 松本 丞治	二一
○民法親族編問題	法律學士 鶴 丈一郎	四〇
○憲法問題	法律學士 清水 澄	五三

答案批評目次 終

答案批評目次

答案世指目次

○ 遺失問題		答案士	新本	新	五三
○ 遺失問題		答案士	舊本	新	四〇
○ 遺失問題		答案士	舊本	新	二二
○ 遺失問題		答案士	舊本	新	一
○ 遺失問題		答案士	舊本	新	一

答案世指目次

決不遺失、決不遺失、四三内外人船舶共有契約ノ效力一四四不法原因ニ基ク給付ノ返還一四五會社支店ノ登記一四六詐欺ノ裏書一四七訊問前ノ偽證一四八偽證ノ被害者一四九監守盜ノ共犯關係一五〇電流ノ竊取一五一詐欺ニ因ル法律行為ト詐欺取財罪一五二委託物費消罪ト委託一五三電話報告書一五四民法第百七十七條ニ所謂第三者ノ意義一五五不法ニ他人ノ所有地内ニ建設シタル土藏ノ性質一五六訴狀ニ依ル解除ノ意思表示一五七專斷ニ由ル借財及ヒ重要動産ノ賣却ト親權濫用一五八招集ノ通知ナクシテ爲シタル親族會決議ノ效力一五九法令ニ依ル商業帳簿ノ證據力一六〇清算人ノ未收債權ノ行用一六一手形變拂地以外ハ支拂場所一六二第 審判決 取消 廢棄一六三廢除廢止規定適用一六四返訴ノ審理ト證據一六五法律行為ノ效力ノ判斷一六六民法第百七十八條ニ所謂第三者ノ意義一六七法律上權利ハ歸スル事項損害者ト對シテ訴權及ヒ一定ノ申立一六八民法施行前ニ於テハ養子ト相繼繼承ハ九支拂場所ニ記載無關ト判斷一七〇支拂場所記載無効ニ對シテ廢除申立ノ探査一七二第三債務者ニ對シテ起訴ヲ要せず一七三區區ニ養子ト相繼繼承受領下町附長ノ權

特選要旨

明治三十八年六月十八日

雜報

一七五 物權ト登記 民法第百七十七條ハ登記法ニ列記セラル物權ニ付テハ登記ヲ爲スニ非アレハ第三者ニ對抗シ得タルコトヲ規定セタルニ過キズシテ登記ナキ物權ハ絕對ニ對抗力ガシトノ注意ニ非ス(大判明治三十八年六月十八日第三民事部判決)

一七六 入會權ト登記 不動産登記法第一條ハ列記法ニシテ例示法ニ非タルニ由リ他ニ之ヲ適用スベキ特別ノ規定ナキ限ハ同法ニ列記セラル入會權ハ之ヲ登記スベキモノニ非ス民法ニ於テ既ニ入會權ヲ物權ト認メタル以上其權利ノ性質上登記ナキモ當然第三者ニ對抗スルコトヲ得ベキモノトス(同上)

一七七 手形權利ノ移轉ト手形ノ交付 裏書ニ因ル手形債權ノ讓渡ハ當事者カ裏書ノ記載ヲ爲スノミヲ以テ足レドモ其手形ヲ裏書人ニ交付シテ始メテ完成スルモノトス(明治三十八年六月十八日第一民事部判決)

一七八 口頭辯論圖書ノ末尾ニ記載シタル判決書效力ハ判決ノ書渡ハ

其前同ノ口頭辯論調査ノ末尾ニ之ヲ附記スルモ、然レモ其後ハ其
ハ其適法ナルヲ勿論ナリ而シテ、斯ル場合ニ於テハ、證據ヲアル
日時及ヒ場所ニ於テ作成セラレタルモノト認メ、其後ハ、
年六月六日第一民事部判決三十九年、
一七九 被害者ノ數ト罪數ニ違背故殺殺者タル謀殺ノ如キ犯罪ハ自他互ニ集
合シ難キ人ノ生命若クハ名譽ヲ侵害スルモノト認メ、被害者毎モ異別ノ殺害
生ス隨テ縱令同一ノ決意ヲ以テ同時同場所ニ於テ數人ヲ謀殺若クハ謀殺
スルモノ之ヲ一括シテ一ノ謀殺ト爲シ、
五件明治三十九年六月六日第一民事部判決三十九年、
一八〇 署名捺印ヲ白紙ニ不正使用、
ハ印章ノ不正使用ノ意義ヲ解スルニ、
印章使用者ノ檢閲又ハ認明ヲ經テ、
印監用罪ヲ構成ス、
一八一 謀殺未遂事件トシテ審理中被害者ノ死亡ト判決、
檢事ノ謀殺未遂

トシテ起訴シタル事件ヲ後ニ被害者カ死亡シタルカ爲メ謀殺既遂トシテ裁判
所カ審理判決シタル場合ニ於テハ、其事ハ同一ニシテ異別ノモノニ非ナルヲ
以テ謀殺既遂ノ點ニ付テ起訴ナキモノト認ムヲ得ス、
一八二 惡事既行ノ摘發ハ刑法第三百五十八條第一項ニ所謂惡事既行ノ摘
發トハ惡事既行ヲ指摘シテ之ヲ公布スルノ意ニシテ、
事既行ヲ暴露シ公衆ヲシテ其惡事既行ヲ知ルルヲ得キシモノト認ム、
一八三 溜池ニ飼養セラル魚類ノ竊取、
一八四 同一事實ニ對シテ再度々起訴、
其事實ニシテ全ク同一ナルトキ、

トス(同明治三十六年(己)第七五八號勅諭第一刑部及謀殺未遂事件明治三十六年六月十五日第一刑部及謀殺未遂事件)
一八五 證人ノ呼出狀ト訊問 證人カ訊問ヲ受タヘキ場所ニ現在スルトキハ之ニ對シテ呼出狀ヲ發スルノ必要ナク又證人カ即時ニ供述ヲ爲スコトヲ得ヘキ地位ニ在リテ即時ノ訊問ヲ甘諾シタルトキハ呼出ニ付テノ猶豫期間ヲ存スルノ必要ナシ(同明治三十六年(己)第一一五五號勅諭第一刑部及謀殺未遂事件)
一八六 公判廷外ニ於テ爲シタル證據決定ノ效力 第一回公判閉廷後第二回公判開廷ニ先テ裁判所カ證人訊問ノ必要ヲ認メタル場合ニハ必スシモ公判廷内ニ於テ之カ決定ヲ爲スヲ要セス公判廷ノ内外ヲ問ハス之ニ關スル決定ヲ爲スコトヲ得(同明治三十六年(己)第一一三〇號勅諭第一刑部及謀殺未遂事件)
一八七 區ノ人格 町村内ノ區カ其固有ノ財産ヲ所有スルトキハ其區ハ之ヲ一ノ法人トシテ其財産ノ主體タルモノトス(同明治三十六年(己)第一一六六號勅諭第一刑部及謀殺未遂事件)
二年六月十六日第一刑部及謀殺未遂事件

●生徒募集廣告

○入學試驗 九月二日、八日、十月二日各午前八時ヨリ施行ス

○第二 年級 編入試験 來ル九月十九日午後一時ヨリ施行ス

右志願者ハ前日マテニ申込ムヘシ、校則入用ノ向ハ二錢郵券ヲ送付スヘシ

八月

和佛法律學校

法學志林

第四十六號

（八月十八日發行）
一、郵寄費金十二錢
二、郵稅金一錢
三、印刷費金一錢
四、校舎費金一錢
五、校舎費金一錢
六、校舎費金一錢
七、校舎費金一錢
八、校舎費金一錢
九、校舎費金一錢
十、校舎費金一錢

志林

○應選判例批評（其十二） 法學博士 梅澤次郎
○應選判例批評（其十一） 法學博士 香孫子勝
○會計法ニ依ル保證金ノ性質 法學士 中山成太郎

解疑

○外國法人ニ就テ 法學士 松本 燕治
○英人ト而法第四百四十條ニ依ル債權消滅權 法學博士 海 謙久郎
○英人ト而法第四百四十條ニ依ル債權消滅權 法學博士 海 謙久郎
○外國人ノ請求ヲ禁止シ得ルモノノ範圍ニ關シ 法學博士 富谷達雄
○外國人ノ請求ヲ禁止シ得ルモノノ範圍ニ關シ 法學博士 富谷達雄

漫評

○遺失票ニ對シテモ理由 法學士 谷野 格
○遺失票ニ對シテモ理由 法學士 谷野 格
○遺失票ニ對シテモ理由 法學士 谷野 格

判例

○大審院判例（其十九） 法學士 松本 燕治
○大審院判例（其十九） 法學士 松本 燕治
○大審院判例（其十九） 法學士 松本 燕治

發行所 和佛法律學校

明治三十六年八月廿六日印刷
明治三十六年八月廿七日發行

編輯者 小宮山 信好

印刷者 小宮山 信好

印刷所 金子 啓 版所

印刷所 金子 啓 版所

印刷所 金子 啓 版所

和佛法律學校

明治三十二年十二月九日內務省許可
明治三十五年十一月十四日第三種郵便物認可
明治三十七年一月十七日同一日郵便物認可
明治三十八年一月十七日同一日郵便物認可
明治三十九年一月十七日同一日郵便物認可
明治四十年一月十七日同一日郵便物認可
明治四十一年一月十七日同一日郵便物認可
明治四十二年一月十七日同一日郵便物認可
明治四十三年一月十七日同一日郵便物認可
明治四十四年一月十七日同一日郵便物認可
明治四十五年一月十七日同一日郵便物認可
明治四十六年一月十七日同一日郵便物認可
明治四十七年一月十七日同一日郵便物認可
明治四十八年一月十七日同一日郵便物認可
明治四十九年一月十七日同一日郵便物認可
明治五十年一月十七日同一日郵便物認可
明治五十一年一月十七日同一日郵便物認可
明治五十二年一月十七日同一日郵便物認可
明治五十三年一月十七日同一日郵便物認可
明治五十四年一月十七日同一日郵便物認可
明治五十五年一月十七日同一日郵便物認可
明治五十六年一月十七日同一日郵便物認可
明治五十七年一月十七日同一日郵便物認可
明治五十八年一月十七日同一日郵便物認可
明治五十九年一月十七日同一日郵便物認可
明治六十年一月十七日同一日郵便物認可
明治六十一年一月十七日同一日郵便物認可
明治六十二年一月十七日同一日郵便物認可
明治六十三年一月十七日同一日郵便物認可
明治六十四年一月十七日同一日郵便物認可
明治六十五年一月十七日同一日郵便物認可
明治六十六年一月十七日同一日郵便物認可
明治六十七年一月十七日同一日郵便物認可
明治六十八年一月十七日同一日郵便物認可
明治六十九年一月十七日同一日郵便物認可
明治七十年一月十七日同一日郵便物認可
明治七十二年一月十七日同一日郵便物認可
明治七十四年一月十七日同一日郵便物認可
明治七十六年一月十七日同一日郵便物認可
明治七十八年一月十七日同一日郵便物認可
明治八十年一月十七日同一日郵便物認可
明治八十二年一月十七日同一日郵便物認可
明治八十四年一月十七日同一日郵便物認可
明治八十六年一月十七日同一日郵便物認可
明治八十八年一月十七日同一日郵便物認可
明治九十年一月十七日同一日郵便物認可
明治九十二年一月十七日同一日郵便物認可
明治九十四年一月十七日同一日郵便物認可
明治九十六年一月十七日同一日郵便物認可
明治九十八年一月十七日同一日郵便物認可
明治一千年一月十七日同一日郵便物認可